

平成29・30年度 調査研究報告書

**学校と地域が連携・協働した
教育活動に関する調査研究**

一般社団法人 埼玉県校外教育協会

目 次

あいさつ

(一社) 埼玉県校外教育協会常任理事 埼玉県教育局市町村支援部参事兼義務教育指導課長	石 井 宏 明	1
---	-------------------	---

調査研究報告実践事例

(1) 大門、新発見・再発見！ －米作りで学ぼう－	さいたま市立 大門小学校	－ 2
(2) 早期起業家教育事業（“さいたま”アントレスクール） －「働く」のその先へ－	さいたま市立 岩槻中学校	－ 6
(3) 学校を核とした地域づくりの推進 －学校応援団と協働し、 子供たちの学びを高める学校づくり－	鴻巣市立 松原小学校	－ 10
(4) 飛翔祭 －有志のイベントから生徒が主役の行事へ－	和光市立 大和中学校	－ 14
(5) 故郷の自然を守る －谷津田の里を守る－小プロジェクト－	飯能市立 飯能第一小学校	－ 18
(6) 地域の企業の方の職業観を感じる活動 －3年間を通して将来に対する目的意識を高める－	所沢市立 狭山ヶ丘中学校	－ 22
(7) みんなで育てよう 秩父大好きちちぶっ子 －地域に根ざした文化伝承的活動の推進の取組－	秩父市立 秩父第一小学校	－ 26
(8) 学校と地域が連携した文化体験学習 －秋桜祭 『神中文化の日』を通して－	神川町立 神川中学校	－ 30
(9) 教育課程における伝統文化体験活動の位置づけ －地域人材との連携を活かした体験活動－	白岡市立 南小学校	－ 34
(10) 義務教育学校開校に向けた地域との協働 －地域の思いを引き継いで－	春日部市立 江戸川中学校	－ 38

これまでの研究主題	42
調査研究委員一覧	43

挨拶

(一社) 埼玉県校外教育協会 常任理事
埼玉県教育局市町村支援部 参事兼義務教育指導課長

石井 宏明

現在、我が国は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代になっています。そのような中、改訂された学習指導要領には、「学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること」が示されています。

そこで、埼玉県校外教育協会では、平成29・30年度の2年間にわたり、さいたま市を含む県内の小・中学校10校に「学校と地域が連携・協働した教育活動について」をテーマとして、調査研究に取り組んでいただきました。

調査研究委員を務めていただいた先生方には、2年間で6回の調査研究委員会に御参加いただくのみならず、毎回、自校で実践した内容等をまとめたレポートを持ち寄って研究を深めていただきながら、教育実践をまとめてくださいました。この報告書には、地域社会の愛情を受けて生き生きと学ぶ子供たちの様子や、先生方による工夫を凝らした多彩な取組など、地域や学校の特色を十分に生かした教育実践を記しております。是非、多くの方々に参考にしていただきたいと思っております。

結びに、本研究を推進するために多大な御協力を賜りました関係者の皆様、とりわけ調査研究校の校長先生をはじめ教職員の皆様、さいたま市教育委員会並びに関係市町教育委員会の皆様、各教育事務所の皆様に心から感謝申し上げ、挨拶といたします。

大門、新発見・再発見！

－米作りで学ぼう－

さいたま市立大門小学校

1 学校の概要、地域の特徴

本校はさいたま市緑区の南東部に位置する。開校以来146年の歴史のある学校で、全校児童数513名の18学級からなる中規模校である。学区は田畑の広がる昔からの農家の地域と、比較的新しい住宅地が広がる地域からなっている。本校の児童の中には、3世代にわたって本校に通っているというケースも見られ、学校と地域とのつながりは深いと言える。また、学区がとても広く、周辺に見沼の貴重な自然が残されている地域である。

学校教育目標として「心豊かでたくましい大門小児童の育成」が掲げられ、「知・徳・体・コミュニケーション」のバランスのとれた「夢と目標をもち、生き生きと活動する子供」の育成を目指している。

2 目指した子供像

育成を目指した子供像は、以下のとおりである。自分たちが住んでいる大門地区に注目して、かつては主要な産業の一つであった米作りについて、主体的に学ぼうとする子。一連の米作り体験活動を通して、自然の奥深さや感謝の気持ちを感じるとともに、学んだことを新聞に分かりやすくまとめ発表したり、発信したりできる子。大門地区のよさ、すばらしさを認識できる子。

3 活動の概要

(1) 教育課程上の位置付けや時間数


学年	教科等	単元・題材名等	時期・授業時間数
第5学年	社会科	米作りのさかんな地域	6～7月頃 10時間
第5学年	総合	「大門、新発見・再発見！」＜自然＞	5～2月頃 17時間

※ 総合：総合的な学習の時間

(2) 活動(単元)計画 17時間計画

時数	主な活動や作業	教師や地域の指導者からの指導・支援	「主体的・対話的で深い学び」の視点の工夫
1	課題の設定 ・オリエンテーション(学習計画) 《事前・並行学習》 ※社会科 「米作りのさかんな地域」	○オリエンテーションを通して、大門地区で古くから行われている米作りに興味・関心をもって、体験活動に取り組んだり、まとめ学習、発表会に取り組んだりできるようにさせる。	【主体的な学び】 社会「米作りのさかんな地域」等の授業を生かし、関連付けながら目標を設定することで、解決の方法や手順を考え、計画的に行動できるようにする。
2	『社会科10時間』 米作りについての知識、農家の方の工夫等を社会科で並行して学習し、総合と社会科とを関連づける。 ①もち米とうるち米を知る。 ②もち米を育て収穫しよう。	○友だちのウェビング図と比べ、自分とは違うとらえ方や考え方を知り、自分の考えをさらに深めて課題を設定できるようにさせる。	昨年度の取組やウェビング図をもとに話し合うことで、活動の見直しをもてるようにする。

3 ～ 5	体験学習 ①代かき ・意味を知り、全員で行う。 ②田植え ・方法を知り、実際に苗を植える。 ③水の管理と除草 ・当番を決め毎朝行う。 ④イネの花の観察 ・夏休みに観察する際の注意を知る。	○社会等の学習や体験活動を基に、問題意識をもたせる。 ○田植え体験から疑問に思ったことから米について知りたいことを考えさせる。 ○調べる内容や方法、まとめ方などを考え、見通しをもって学習を進められるようにさせる。	【対話的な学び】 地域の農家の方に、聞き取りを行うことで、自分なりの考えをもてるようにする。 【深い学び】 ワークシートを利用し、気付きや発見、疑問に思ったことをその場ですぐに記録していくことで、収集した情報をまとめていく力を身に付けることができるようにする。
6 7	課題設定・情報の収集 ・ゲストティーチャーへの質問 ・図書資料 ・インターネット	○調べている課題に必要な資料を選び、課題解決につながる内容を調べ、まとめさせる。〔ポートフォリオ、制作物に〕	【深い学び】 収集した情報を、序列化して考える、類推して考える、因果関係から考えるなど、何をどのように考えさせたいのかを意識し、学習活動を適切に位置付ける。
8 9	整理・分析 ・田んぼやイネの変化に気づく。 ・水の管理 ・自然への感謝	○社会等の学習や体験活動を基に、問題意識をもたせる。	【深い学び】 お米のすばらしさや先人たちの苦勞を知り、食べ物に対する自分なりの考えをもつことができようにする。
10 ～ 12 13	体験学習 ・稲刈りを行う。 ・鎌の使い方を知り、稲を刈る。 まとめ・表現 ・米の乾燥について知り、農家の機械で行ってもらふことを知る。 ・米作りの奥深さ ・農家の方の工夫	○米作りを通して、大地の恵みや土と共に人間は生活をしていることに気付かせる。 ○収穫した喜びを味わわせながら、稲刈り体験ができるようにさせる。	【対話的な学び】 地域の農家の方に、質問しながら必要な情報を集めている。 【主体的な学び】 稲刈り、脱穀、精米等について、地域の農家の指導を仰ぎながら活動している。
14 15	体験学習 ①収穫したもち米を使って餅つきを行う。 ②つきたての餅を味わう。 ・「蒸す」「つく」「成形する」等の手順を知る。 ・「蒸す」「成形する」等の作業を保護者にお願いする。	○仲間やボランティアの方々と何かを作り上げていく良さを実感し、達成感を味わわせる。 ○日本の収穫祭についての理解を深めるとともに、日本の伝統文化の良さに気付かせる。	【深い学び】 学習カードや活動時の写真などを用いて、学習の仕方や進め方を振り返る時間を設けることで、今後の地域社会と自分との関わりについて考えさせる。
16 17	整理・分析 まとめ・表現	○発表会后、掲示物は廊下等、他クラスが見ることのできる位置に貼ること	【深い学び】 学習の振り返りを通して、自分の学びのよさに

<p>壁新聞を作り、発信しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞作り ・発表会 	<p>で、興味・関心をより高めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○互いの発表を聞いて相互評価できるようにするとともに、ワークシートなどを用いて、具体的に自己の振り返りができるよう支援する。 ○学習を通して、米作り、自然について自分が考えたことやこれからの思いをまとめるようにする。 	<p>気付かせ、自己の行動の在り方、生き方の発見・模索につなげるようにする。</p> 
--	--	--

【平成25～26年、埼玉県『緑の学校ファーム・ステップアップ事業』の指定】

4 学校と地域が連携・協働するまでの道のり

大門小スクールサポートネットワーク (SSN) は、平成 23 年 11 月、他校に先駆けて設置されたもので、PTA や自治会をはじめ、学校評議員会・交通安全協会等、地域の 24 の組織で構成されている。こうして学校・PTA・地域が一体となって、子供を見守る体制づくりと、地域の教育財産 (人・モノ・コト) の効果的な活用が一層推進された。

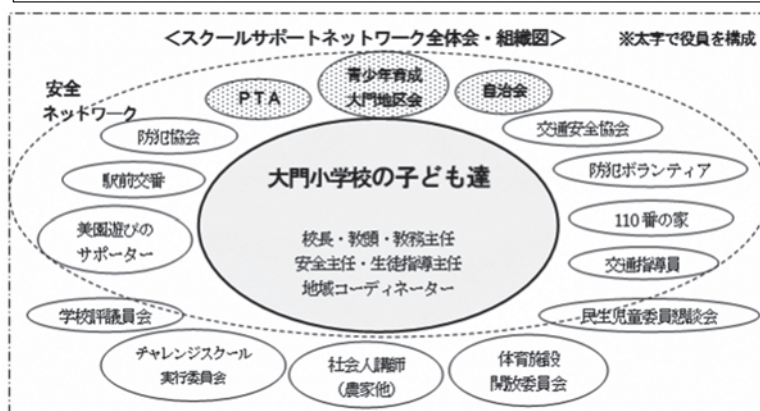
SSN 設置に伴い、教職員には地域の方に依頼したい教材や、人材等を上げてもらい、これを SSN 全体会の協議に取り上げた。例えば、米作り指導については、SSN の委員の方に紹介していただき、改めて学校が依頼したもので、最も早く支援が実現した例である。他に、2 年生の町探検で訪問する店舗の依頼、4 年生の二分の一成人式で職業紹介していただく講師の選定等、SSN による支援が広がっている。

一方、冒頭にも述べたが、大門地区は開発が進んでいるとはいえ、未だ豊かな自然と歴史とが融合する町である。保護者や地域にはこのような大門地区の素晴らしさを子供たちに学んでほしいという願いをもっている。

そこで、学校への支援が中心であった SSN を見直し、学校と地域が連携・協働して行う活動や、PTA・地域が行っている活動も SSN 全体会で取り上げ、地域全体に周知することにした。例えば、PTA のふれあい祭りや植栽活動、地域の祭りや育成会事業も、地域全体で共有できるようにした。近年これらの活動への参加者が増え、子供たちは生まれ育つ大門地区に一層の親しみを感じるようになったと考えている。

なお、上記のように SSN が、学校と家庭・地域の連携・協働の活動が中心に見直されてきたことから、これを「SSN プラス」と呼んでいる。

スクールサポートネットワークは、地域ぐるみで子供を育てるため、学校と PTA、ボランティア組織、地域諸団体、社会教育施設、行政機関等を結ぶさいたま市独自の仕組みだ。その連絡・調整を担う学校地域連携コーディネーターが全ての市立小・中・特別支援学校に配置されている。(さいたま市教育委員会の主な事業「スクールサポートネットワーク (SSN) 推進事業」より)



【学校農園のミニ田んぼで、代かきについての説明を聞く子供たち】

5 学校と地域が連携・協働して子供を育てている場面

『自然がいっぱい！ ハッピー ファーム』(平成 25 年 1 月、学校農園完成) により、全ての学年が農園での活動が可能になったことから農事暦を作成し、それに基づ

いて各学年が種まきから水やり、草取りや観察、収穫までの農業体験を行うことができるようになった。地域の農家の方をゲストティーチャーとしてお招きして、子供たちに優しく指導していただいた。子供たちは年間を通じて、大門地域の環境を大切にしながら、農業を営む方の思いを知ることによって、大門地区がさらに好きになっている様子であった。また、年間を通して米作りを体験したことで、お米に対する興味・関心が高まっている様子が見受けられた。



【田植えをしている子供たち】

米作りの体験時期については、以下のとおりである。

- ・代かき：6月頃
- ・田植え：6月頃
- ・稲刈り：10月頃
- ・もちつき体験：12月頃

6 成果と課題

(1) 成果

- 体験活動を通し、普段食しているお米について興味・関心をもつ子供が増え、自分の疑問や課題を追求する姿がたくさん見られるようになった。
- 地域の方をお招きする際は、該当学年と地域連携コーディネーターが事前の打合せと事後のお礼を丁寧に行うことで、連携・協働が円滑に行われている。
- ゲストティーチャーが活動に慣れ、実際に作業服等を着用するとともに、道具や写真を準備し効果的に説明するため、児童の理解が深まっている。
- SSN だよりにより、新たな地域の教育財産（人や施設など）の開発に向けて家庭や地域への呼びかけが継続されている。（右の表参照）

	学習内容	教育財産（人や施設など）	時期
1	公園に行こう	坂下公園	6月
	秋の虫取り（2年と）	ファーム及びその周辺	9月
	昔遊び	遊びのサポーター、育成会	12月
2	なかよしフェスタ	だいもん幼稚園	1月
	まち探検	学区の施設・店舗	6月
	ザリガニつり（？）	大門中地区の堀	7月
	公共施設の利用	美術館（？）	10月
3	学区の自慢	学区探検と植木屋さんのお話	4月
	市内巡り	埼玉スタジアム 市役所、人形	5月
	農家の仕事	いちご園、ハーブ園の見学	11月
4	くらしの移り変わり	民家園	2月
	人々のくらしを守る	緑海防衛美術館出展所見学	5月
	星の動き	宇宙科学館	5月
	人々のくらしを守る	クリーンセンター大崎	6月
5	米作り	田植えからもちつき	6月～
6	福祉のまち	盲導犬の利用者のお話	11月

(2) 課題

- SSN により学校と地域のさらなる連携・協働が求められている。そのためには地域の一方的な支援にとどまらず、学校と地域の協働の活動により、教育活動を一層充実させる必要がある。
- 地域の環境の変化に伴い、これまで行ってきた自然活動が制限されてきている。新たな地域活動を模索する必要がある。
- 今後、学校と地域との連携を一層深めるためにも、地域連携コーディネーターの役割は大きくなるため、コーディネーター異動の際には、手順等についての十分な引継ぎが必要になってくる。



【稲刈りをしている子供たち】

7 NEXT PLAN

これまで行ってきた取組を継続するとともに、「子供たちには夢を 保護者には希望を 地域には信頼を！」という目標に向かって、大門小スクールサポートネットワークによって構築してきた『地域の教育財産（人・モノ・コト）』英知を結集させて、取組をさらに充実させていきたい。



【講師と保護者の交流】



【餅つきをしている子供たち】

早期起業家教育事業

(“さいたま”アントレスクール)

—「働く」のその先へ—

さいたま市立岩槻中学校

1 学校の概要、地域の特徴

岩槻中学校は、創立72年目を迎えた学校である。学校周辺は、閑静な住宅街に囲まれており、正門前には道を隔てて、さいたま市立太田小学校があり、東側には埼玉県立岩槻商業高校がある。PTAを中心に、保護者・地域・関係諸団体は、学校に対し大変協力的であると共に、その期待も高い。緑豊かで広い校地に恵まれた教育環境の中で、生徒達は落ち着いた学校生活を過ごしている。

岩槻の地は、江戸時代より水陸両面での便が良かったため、岩槻城をはじめとする軍事的な要所、そしてそれに付随するように城下町・宿場町としての機能を持った都市となって栄えていった。それに伴って、岩槻人形や岩槻城をはじめとする史跡が今に残り、伝統的な文化がされた土地である。そして、平成17年4月1日、さいたま市・岩槻市の合併により、さいたま市の第10番目の区として「岩槻区」となった。

2 目指した子供像

前述のように伝統的な文化が残る岩槻の地で育つ子供だからこそ、その地・その文化を身近に感じ、地域の一員としての自覚を持てる子供を育成したい。また、地域とともに商品の企画・販売を行うことを通して、地域の愛情をうけて自分に自信を持つ子供を育成していく。

3 活動の概要

(1) 教育課程上の位置付けや時間数

学年	教科等	単元・題材名等	時期・授業時間数
第1学年	総合・特活	We can change the world!! ～起こそう小さなムーブメント～	1・2学期 15時間

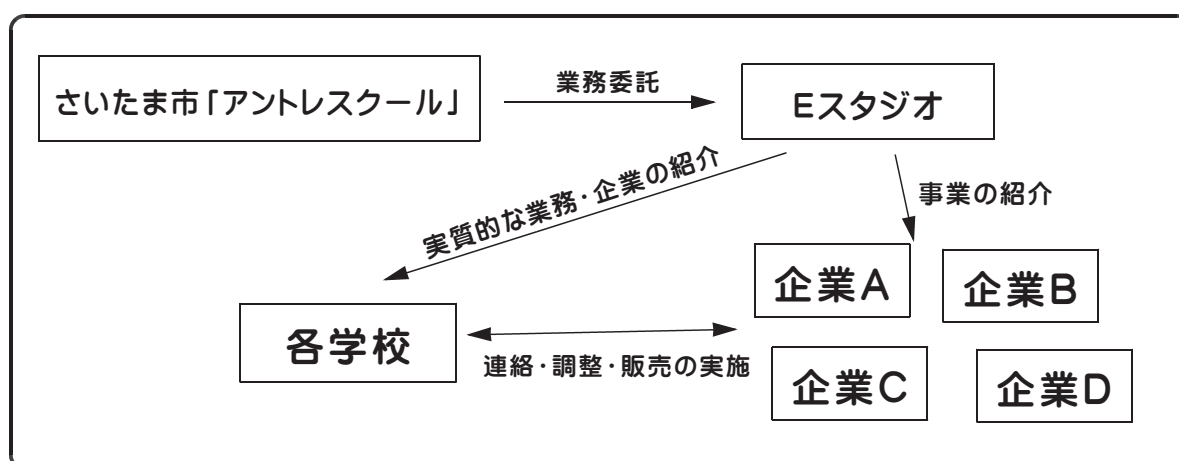
※ 総合：総合的な学習の時間 特活：特別活動

(2) 活動(単元)計画

時数	主な活動や作業	教師や地域の指導者からの指導・支援	「主体的・対話的で深い学び」の視点の工夫
----	---------	-------------------	----------------------

1	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス 社長アンケート実施 「あなたが社長ならどんな仕事、会社を作りたいか」 	<ul style="list-style-type: none"> ○著名人の紹介をしながら、「行動を起こす」「何かを変える」ことの大切さを生徒が理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【主体的な学び】 学習の目標を示し、どのような仕事・会社を作りたいか考えさせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・会社設立に関する学習 (Eスタジオ講演) 会社での役割「RIASEC」について 「会社でどんな役割についてみたいか」 	<ul style="list-style-type: none"> ○会社の中での役割を、生徒が具体的にイメージできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【主体的な学び】 ワークシートを使い、生徒がどのような役割で仕事をしたいかを引き出す。
3 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・会社設立と役割決め 会社社長あいさつ 社員顔合わせ どんなことをやりたいのかすり合わせを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを使い、生徒がどのような役割で仕事をしたいかを引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 【対話的な学び】 生徒同士が対話を通して、どのようなことに取り組むかを決定できるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・商品企画・事業計画に関する学習 (Eスタジオ講演) ・事業計画案作成に関する説明 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業全体の見通しを持たせ、今後の商品企画に役立てられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【主体的な学び】 講演の中で、事業の進め方を見通しを持った上で理解させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書の作成 マーケティング調査(夏休みに実施)結果すり合わせ 事業計画案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを使い、生徒が具体的な事業計画を段階的に把握できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【対話的な学び】 対話を通じて、様々なマーケティング情報を生徒同士が共有できるようにする。
6 ～ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画案チェック① (Eスタジオ訪問) 1社ずつ面談し、テーマと商品の関連性をチェックする ・事業計画の修正 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業計画案を担当者に見てもらいながら、事業の方向性を確立させる。 ○事業計画に修正を加える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【対話的な学び】 事業計画案を担当者に見てもらいながら、対話の中で専門家の新たな視点から取り組みを見つめ直せるようにする。
9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画チェック② (Eスタジオ訪問) 商品の数量・価格・発注までを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ○修正した事業計画案にもう一度目を通してもらい、事業計画案を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【対話的な学び】 修正を加えた事業計画案を再度見てもらい、最終的な事業計画案に仕上げさせる。

11 12	・仕入れ・販売準備 チラシ・ポスターの作製など	○販売に向けての準備を行う。	【主体的な学び】 販売の準備やポスター・チラシの製作を通して、どのようにすればよりよい販売になるかを生徒に考えさせる。
13	・販売・決算 (Eスタジオ訪問) 校内バザーや校外の販売会における商品の販売	○各販売会場において、実際に販売をする。	【深い学び】 これまでの学習・準備してきた内容を活用して販売をさせる。
14 15	・振り返り (Eスタジオ訪問)	○Eスタジオ担当者による、まとめの集会を行う。	【対話的な学び】 Eスタジオ担当者とともに対話を通して取り組みを振り返らせる。



4 学校と地域が連携・協働するまでの道のり

「“さいたま”アントレスクール」の目的は、「働くことやお金の大切さを学びながら、成功体験や失敗体験を通して、将来、社会で活躍するために必要な、チャレンジする力、自ら考える力、コミュニケーション能力などの『起業家精神（アントレプレナーシップ）』を育む」ことである。

学校としても目指す子ども像を同じところに置き、準備をしてきた。特に、Eスタジオには、メールでのやりとりのほか、来校してもらっての打ち合わせ、生徒全体に向けての講習、商品開発の企画書をもとにした生徒たちとの面談を数回に渡って行った。



【商品開発の面談をする子供たち】

5 学校と地域が連携・協働して子供を育てている場面

E スタジオを仲立ちとした商品開発の打ち合わせでは、書面での企画書提出から実際の面談にわたって、地域の特色を最大限に活かしたより良い商品はできないか問いを投げかけていった。生徒も、生徒同士・教員・地域の方との対話を通して深い学びにつなげることができた。一部の班では、協力していただくパン屋に直接出向き、開発の打



【商品販売する子供たち】

ち合わせを行った。生徒の「岩槻のあたたかい人柄をアピールするパンを作りたい」という思いから、岩槻人形の男雛と女雛が「人」という漢字をつくり支え合っている「ほっこりパン」を作成した。完成までに味や見た目、値段の交渉を3回程度の打合せで行っていったのだが、パン屋側はその打合せでは、生徒の意見を地域の意見として大切に扱ってくださった。

6 成果と課題

(1) 成果

- 生徒自ら商品を考え、販売し、お金を稼ぐという体験を通して「働く」ということを実感して学ぶことができた。
- 地域の愛情をいただきながら活動できたことで、自分に自信をもつ子供を育成することができた。

(2) 課題

- 活動する班の中でも、一部の生徒に負担が集中してしまうことがあった。
- E スタジオを仲介することで、取り組み自体はスムーズに行うことができたが、実際に販売へ協力してくださる商店・小売店と直接コミュニケーションをとる機会が比較的少なかった。

7 NEXT PLAN

「“さいたま”アントレスクール」に取り組んだこの学年は、来年度2年生でさいたま市教育委員会が行っている「中学生職場体験事業『未来(みら)くるワーク体験』」に取り組む。より多彩な事業所へ出向き、2～3日職業体験を行うことで、働くことにさらに深く関わっていく。この点から見ても、「“さいたま”アントレスクール」はその前段階としてとてもよい体験であった。

一方で、本校では教育活動として「“さいたま”アントレスクール」を利用しているのはこの学年だけである。本校には学校運営協議会がないため、学校職員の会議や「学校評議委員連絡会」「学校関係者評価委員会」「主任児童委員・民生委員連絡協議会」等を通して、この取り組みを学校全体としてどう見るか検討する段階に入ったと考える。

学校を核とした地域づくりの推進

－学校応援団と協働し、子供たちの学びを高める学校づくり－

鴻巣市立松原小学校

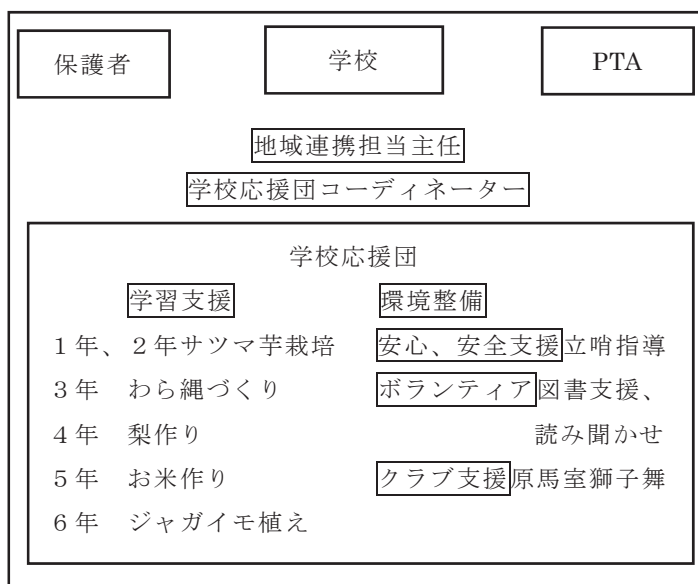
1 学校の概要、地域の特徴

本校は、鴻巣市南部の果樹園、田園の残る緑豊かな住宅街にある学校で、本年開校43年目を迎える。本校では、一人一人が目的意識をもった「チーム松原」をテーマとして掲げ、『安心・安全を基盤とした、「やりがい」「生きがい」「居がい」のある学校』を目指し、全職員が一丸となり教育活動に取り組んでいる。

本校の特色ある教育活動の梨栽培や米づくり、サツマイモの収穫作業やささら獅子舞クラブの活動など、多彩な体験活動を教育課程に位置付け、豊かな心の育成に力を注いでい

る。さらに、家庭・地域と連携した教育活動として学期毎の学校公開の他、学校応援団の協力を得て、環境整備や昔遊び体験に取り組んでいる。

本校の学校応援団は、学習支援、環境整備、安全・安心の支援、クラブ支援のボランティア組織を構成しており、総勢27名である。学習支援により各学年で様々な体験活動が行われている。学校応援団の力を生かした「地域に開かれた教育課程」を実施し、学校、家庭、地域が一体となった教育活動を行っている。



【体制図】

2 目指した子供像






本校は、豊かな自然環境に恵まれており、学校の立地条件や地域の人材を生かし、協働して特色ある教育活動をすすめやすい環境が整えられている。そこで、地域に愛され、地域で育っていく子供たちの成長を持続していくために、目指す子供像を「地域の大人の愛情を受けて育つ子供」とし、学校と地域の協働体制のさらなる充実を目指そうと考えた。

3 活動の概要

(1) 教育課程上の位置付けや時間数(第5学年の「総合的な学習の時間」を例に)

学年	教科等	単元・題材名等	時期・授業時間数
5 学年	総合的な学習の時間	お米を作ろう	4月～3月頃 23時間

(2) 活動(単元)計画 ■時間計画

時数	主な活動や作業	教師や地域の指導者からの指導・支援	「主体的・対話的で深い学び」の視点の工夫
1 ～ 5	<p>課題の設定</p> <p>オリエンテーション</p> <p>○発芽の観察やもみ蒔き体験や応援団の方の話から、調べる課題を決める。</p> 	<p>○学校の田んぼやこれからお世話になる方々について紹介する。</p> <p>○社会科と関連を図り、関心が高まるようにする。</p> <p>○松原地区で古くから行われている米作りについて興味・関心をもって取り組めるようにする。</p>	<p>【主体的な学び】</p> <p>学習の目標を持たせたあとに、自ら解決の方法を考えさせる場面を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を設定することで計画的に行動できるようにする。
6 ～ 15	<p>体験活動</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験をする。 ・田植え体験をする。  <ul style="list-style-type: none"> ・稲刈り体験をする。 ・脱穀を体験する。 	<p>○授業で事前に稲作について手順や準備を綿密に行うことで、体験活動がスムーズに行えるようにする。</p> <p>○応援団の方から稲の植え方を説明していただき、興味・関心を高める。</p> 	<p>【対話的な学び】</p> <p>児童が保護者、地域の方と双方向の対話ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに話合いの場を設定する。 ・クラス全体での話合いの場を設ける。 ・応援団の方への感謝の気持ちを伝える。
16 ～ 23	<p>発表・まとめ</p> <p>○調べたことと考えたことをまとめ仲間に伝える。</p> <p>○感謝の会を開き、お世話になった方と収穫したお米を味わう。</p> 	<p>○発表時にまとめやすいように、体験ごとに自分の考えや感想をまとめておく。</p> <p>○感謝の会の調理に関する部分は、家庭科との連携を図る。事前に材料の準備や感謝の会の進め方を確認する。</p>	<p>【深い学び】</p> <p>それぞれのグループが自分の考えを文章でまとめる活動を適切に取り入れ、考えが変容したことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びのよさに気付かせ、自分の行動のあり方、生き方の発見につなげるようにする。

4 学校と地域が連携・協働するまでの道のり

本校では、校地内に4年生が総合的な学習の時間等で学習している梨の木がある。梨づくりは、梨農家である果樹園の技術協力を受けて栽培を行っている。また、5年生の社会・総合的な学習の時間や1、2年生のサツマイモづくりでは、近隣の農家の田んぼや畑を使わせていただいている。果樹園や農家の方には、今後も継続して協力をいただくため、学校応援団に加わっていただいた。



【受粉について教わる児童】

様々な体験活動をスムーズに行うため、地域連携担当主任が学年主任と学校応援団コーディネーターに相談の上、日程や活動内容の調整を学校応援団の方々としている。年度当初は、日程の調整や準備に時間がかかっていたが、学校応援団コーディネーターや学年主任と連絡・調整を丁寧に繰り返すことで、連携が図りやすくなり、スムーズに活動を行うことができるようになった。そして、年度末には、より学校・家庭・地域が連携できるよう学校応援団や学校職員へ地域行事に対するアンケートを実施し、問題点を明らかにし、改善を図った。このことにより、カリキュラム・マネジメントに基づいて、学校・家庭・地域が一体となった地域連携を図ることができた。

5 学校と地域が連携・協働して子供を育てていく場面

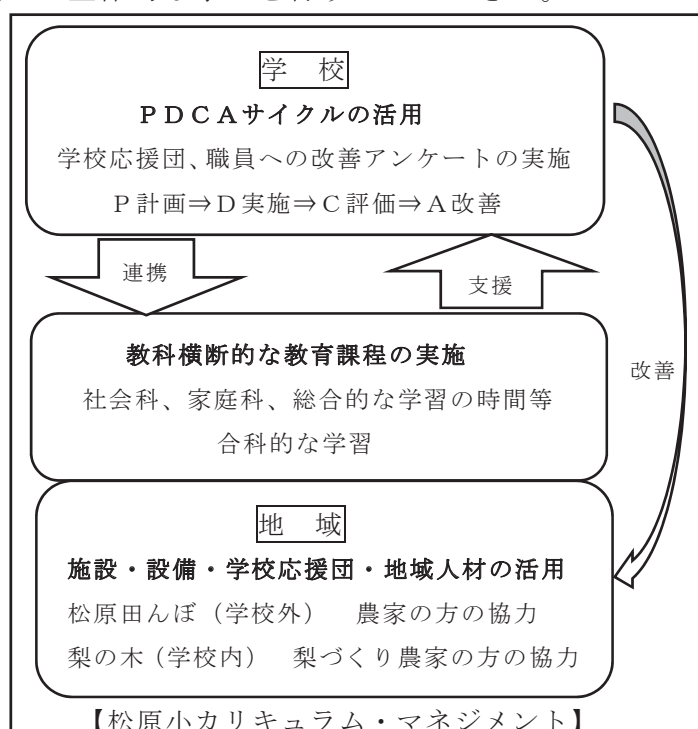
社会科、家庭科、総合的な学習の時間を中心に学習計画を作成した。年間を通じてもみ蒔き、田植え、稲刈りなどの体験を応援団の方々に教えていただいた。児童が食べているお米には、様々な工夫や苦労があり、生産されていることに気付くことができた。活動に抵抗感をもっていた児童も、応援団の方々と仲良くなり、活動に楽しく参加することができた。特に田植え体験では、裸足で1本ずつ稲を植えることの大変さや苦労を知ることができた。事前の打合せを丁寧に行ったことで、地域や保護者には気持ちの余裕が生まれ愛情をもって児童に接してくださった。その結果、児童が楽しく対話する中で、様々な体験に根差した主体的な学びを行うことができた。



【田植えを教わる子供たち】



【案山子づくりを教わる子供たち】

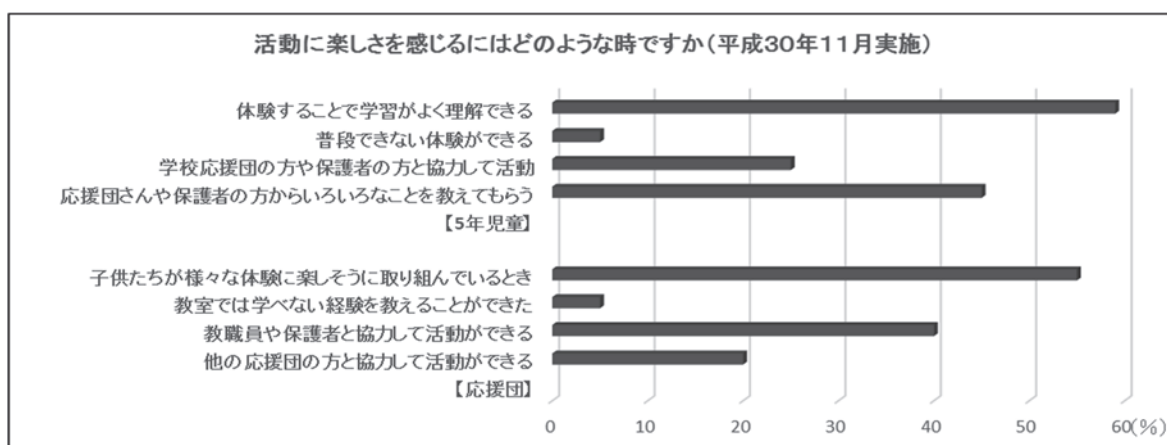


6 成果と課題

(1) 成果

- 社会科と総合的な学習の時間などで合科的に取り組むことによって、体験に基づいた学習を行うことができた。もみ蒔きや田植えなどの実体験を行うことで農家の方の苦労や工夫を知ることができた。特に苗植えや田植え体験では、地域の応援団の方が愛情をもって接してくださることによって、子供たちは楽しく対話しながら学習することができた。体験後には子供たちに感想を書かせることで田植えや稲刈りの大変さに気付くことができた。子供たちに行ったアンケートでは、約9割の子供たちが「大変だったが、楽しく活動できた」と答えている。教科書のみではなく実体験をともなった知識とすることができ、地域の方との対話を通じた深い学びとすることができた。
- 学校応援団の方に行ったアンケートから、約9割の応援団の方が応援団の活動に楽しさを感じていると答えている。また、楽しさを感じている理由として「子供たちが様々な体験に楽しそうに取り組んでいるとき」を理由とした方が多かった。子供たちに教えることや子供たちが嬉しそうに体験に取り組むことが、学校応援団の方々のやりがいや楽しさにつながっていることが分かる。

これらのことから、応援団の方が活動に楽しさややりがいをもち、「地域の大人の愛情を受けて育つ子供」を育成することができた。



(2) 課題

- 学校だよりやホームページなどを活用して保護者に学校応援団の活動を知っていただき、各学年の多くの保護者の協力を募り、学校全体で児童を見守り、育てる体制づくりを行う。
- 田植え体験や稲刈り体験は、天候に左右されるため、予備日を設定し、早期に連携し、計画をおこなっていく。より一層、学年や応援団の方との連携を密にし、計画、準備、活動していきたい。

7 NEXT PLAN

地域連携の取組が一層スムーズに行うことができるよう、教科横断的な取組や行事を年間指導計画に確実に位置付ける。様々な活動のための準備時間の確保と専門性を生かした指導は、より一層のカリキュラム・マネジメントによる解決に努める。

飛翔祭

－有志のイベントから生徒が主役の行事へ－

和光市立大和中学校

1 学校の概要、地域の特徴

本校は、平成28年に開校70周年を迎え、1・2・3学年各7学級と特別支援学級2学級で、在籍生徒数806名、職員数約60名の大規模校である。学校教育目標は「努力で輝く大和中生」を掲げ、生徒は「元気なあいさつ きれいな学校 じっくり 学習に打ち込む活動 みんなで協力 思いやる心」を心得として、部活動や学校行事に積極的に取り組んでいる。この数年生徒の学習への意欲が高まっており、すべての授業で熱心に取り組む姿が見られる。近年は大きな生徒指導上の課題はなく、学校生活に前向きに取り組んでいる生徒が大半である。

1日平均約36万人が利用する和光市駅が近く、3つの路線で都心へ15分程度でアクセスできる環境にあり、大きなスーパーや飲食店、商店が立ち並ぶ活気ある街である。地域の方々は、学校の教育活動に非常に協力的であり、職場体験学習の際に多くの事業所が生徒を受け入れて下さっている。保護者の教育への関心が年々高まっており、通塾している生徒の割合も年々増加している。PTAやおやじの会などが中心となって行うあいさつ運動や、清掃活動（クリーン大和）も行われている。

2 目指した子供像

この行事を通じて、地域の愛情を受けて自分に自信をもつ生徒の育成を図っていく。この活動の狙いは3点ある。①学校、PTA、地域住民等が飛翔祭を通して、交流を深め、「中学生と小学生・高校生とのつながり」「生徒と地域とのつながり」等つながりの醸成を図る。②大和中学校生徒と地域の人々が集まり、共同作業で触れ合うことができる場所の提供。③地域活動の紹介できる場を設けることで、今後の教育活動に地域力を取り入れる準備段階に位置づけ、「地域とともにある学校」を目指し、コミュニティ・スクールの一環とする。

生徒が中心となり、有志や部活動によるステージでの発表や部活動ごとの物販などを行っている。生徒にも強い意志があれば、企画立案し、実行できる場を提供するよう地域の方々が機会を創造している。

3 活動の概要

(1) 教育課程上の位置付けや時間数

学 年	教科等	単元・題材名等	時期・授業時間数
第1学年	総 合	職業調べ	5～6月頃 4時間
第2学年	総 合	職場体験	5～7月頃 12時間
第3学年	総 合	修学旅行	4～6月頃 14時間

※ 総合：総合的な学習の時間

生徒会活動：飛翔祭の企画・運営・渉外、有志の生徒ボランティアの募集、しおり作成

部活動：販売作品制作、イベントの企画・実施、部活動体験の準備・実施

(2) 活動計画

活動主体	主な活動や作業	教師や地域の指導者からの指導・支援	「主体的・対話的で深い学び」の視点の工夫
各 学 級	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の実施 2年：職場体験学習 3年：修学旅行 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の事業所と連携し、職業に対する思いを深める。(2年) ○修学旅行を通じ、対人関係の望ましい態度や習慣を身に着けさせる。(3年) 	<p>【主体的な学び】 生徒が課題解決にあたり、何ができるのか、どのように学び解決していくのかを考えさせる。</p> <p>【対話的な学び】 生徒と地域の人との対話する機会を作る。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示用新聞の作成 1年：職業調べ 2年：職場体験学習 3年：修学旅行 <p>(キャリア教育の支店の発展段階として位置づける)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な掲示物の作成ができるようにする。 ○次年度の行事や将来のキャリアに向けた指導を充実させる。(1年) ○職業に対する考えを深める。(2年) ○修学旅行を通じ、身に着いた力を実感させる。(3年) 	<p>【深い学び】 生徒が考えを文章等でまとめる活動を適切に取り入れ、考えの変容を実感できるようにする。</p> <p>【対話的な学び】 地域住民等にインタビュー等をして、様々な生き方について学べるようにするために、事前の打合せを綿密に行う。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室や活動場所などでパーテーション等を用いて、地域の方や保護者に生徒による作品などの紹介 		<p>【対話的な学び】 生徒と地域の人との対話の機会を作る。 生徒に発表させる機会を作る。</p>
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> ・しおり作成 ・有志募集 ・企画、運営 ・渉外 	<ul style="list-style-type: none"> ○より多くの生徒に呼びかけができるような工夫を考えさせる。 	<p>【対話的な学び】 生徒の企画を実現するために、生徒会とPTAで対話しながら進めていく。</p>
各 部 活 動	<ul style="list-style-type: none"> 吹奏楽部：コンサート 野球部：ストラックアウト サッカー部：キックターゲット 放送部：ステージ司会 美術部：ポスター作成・作品販売 手芸部：作品販売 囲碁将棋部：対局 外部活動の紹介の場 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備や片付けの計画作成、運営方法等を生徒主体で考えさせ、実施させる。 ○市役所へポスターの掲示申請をする。(PTA) 	<p>【深い学び】 生徒が多様な考え方を導くことができる課題を設定する。</p> <p>【主体的な学び】 生徒に発表させる機会を作る。</p>

4 学校と地域が連携・協働するまでの道のり

昨年度まで、夏季休業中に飛翔祭というイベントが行われていた。これは、生徒会とPTAが共催で行うものであった。PTAは生徒が主役となり楽しく過ごせるお祭りをイメージし、地域の方々の支援などを得て様々な催し物を開いていたが、学校行事ではなかったため、生徒の有志による参加のみであった。夏季休業中ということもあり、生徒も教員も全員参加という形までには至っていなかった。また、PTAや地域の方々も、暑さ対策や台風などの影響により、夏に行うことの難しさを痛感していた。その2つの課題を解決するために、管理職と生徒会担当、PTA本部役員で集まった機会に多くの話し合いを重ね、学校行事である「文化週間」とタイアップし、さらに「おやじの会」などの学校応援団の協力も加えた形で行えないかという結論に至った。

文化週間とは、10月中旬から下旬にかけて行われる行事で、学校公開（授業参観）や各クラスの掲示物展示、合唱コンクールの開催が含まれている。この期間に文化・芸術部の発表の場を設け、全校生徒参加でより活気ある行事として位置付けることを試みた。

これまでの文化週間では、地域のブラジリアンパーカッショングループや和光太鼓の方を呼び、発表の場へと繋げ、本物に触れる体験をさせていただいていた。さらに音響や屋台の機材、舞台の司会進行などで地域の方の大きな協力を得ている。



和光太鼓の様子



屋台の様子

5 学校と地域が連携・協働して子供を育てている場面

○ 生徒が主役

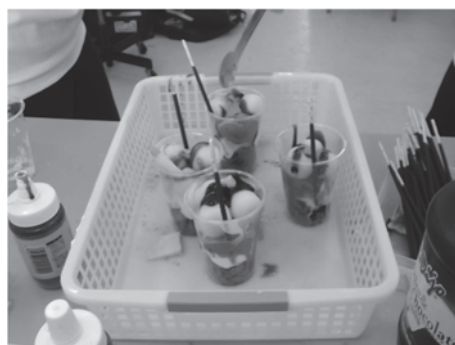
PTAの方々には「生徒が主役」という合言葉のもと団結し、生徒が伸び伸びと活動できる素地を作ってくださいました。そこで、展示するものや各部活動での取組について、生徒の意見をより多く反映させようと積極的にPTAの方々と意見交換した。さらに教師同士でも多くの協議の場を設け、地域の方の関わり方が学校が意図する形になる方法を常に模索した。

地域と生徒会が一体となる場面は、学校のすぐ近くにある洋菓子店に生徒会が考案したスイーツを提案し、具現化されたものを生徒会が販売するという事になった。生徒は、イメージ図や材料などを限られた時間の中で考え、洋菓子店に提案した。そして、いただいたアドバイスを参考にして何度もアイデアを練り直し、作り上げたときは達成感にあふれていた。

さらに近隣の小学校へ情報を発信し、次年度の新入生に向けての部活動の紹介や、中学校生活への意識付けにも大きく貢献できたものと実感している。



【ステージ発表の様子】



【生徒考案のスイーツ】



【キックターゲットの様子】



【ストラックアウトの様子】

6 成果と課題

(1) 成果

- 夏季休業中から秋に移行したことで、時間にゆとりが生まれた
- イベントから行事に変更したことで全教員の協力が得られた。
- 生徒会の最後の行事ということで1年間の集大成として発表できる機会を作ることができた。
- 小学生や幼児などとも触れ合う機会を作り、相互に良い影響を与え合うことができた。
- 様々な生徒が、一人一役として活躍することができて、達成感ややりがい、自己肯定感を高めることができた。
- 地域住民等が学校に強い関心を持ち、協力を仰ぐことができた。

(2) 課題

- 運動部の役割分担に工夫できる点があった。
- 地域の方の負担となってしまう点がある。

7 NEXT PLAN

P T Aと生徒会の共催で有志によるイベントから、生徒主体で全員参加の行事へ移行し、抱えていた大きな課題を少なからず解消し始めていると考えている。次はより拡大して地域の方々へアナウンスし、地域の方の発表の場としても活用できる仕組みを整えていく必要があると感じている。生徒が主役として、教員・P T A・そして地域の方々为一体となる場として確立し、コミュニティ・スクールとしてより充実した行事にしていくことが望まれる。

故郷の自然を守る

—谷津田の里を守る—小プロジェクト—

飯能市立飯能第一小学校

1 学校の概要、地域の特徴

本校は、明治6年（西暦1867年）に創立された市内で最も歴史のある小学校である。「あかるく なかよく たくましく」を学校教育目標とし、地域・家庭と連携しながら教育活動を進めている。また、児童一人一人が自分を高めていく実践として「一小 五つの実践（1 あいさつは自分から先にしよう 2 返事はハイとはっきりしよう 3 授業は姿勢を正して受けよう 4 ろうかは静かに歩こう 5 そうじはだまって集中してやろう）」を掲げている。

飯能市内の中心部に位置しているが、近隣に天覧山や飯能河原があり、自然に囲まれている。そのなかでも、隣接する天覧山は様々な生き物が生息し、時間や季節に合わせて生き物の営みが発見できる場所である。この豊かな自然を生かし、本校では様々な教科や学校行事等を行っている。

2 目指した子供像

- (1) 飯能の学習素材を起点として、自ら設定した課題を追求したり振り返ったりする中で、環境を守ることの大切さに気づき、地域への愛着を深めることができる子供。
- (2) 天覧山周辺の自然や自然保護について、様々な体験活動を通して環境に関心をもち、自然を守るために、自ら考え、できることを実践しようとすることができる子供。

3 活動の概要



(1) 教育課程上の位置付けや時間数

学年	教科等	単元・題材名等	時期・授業時間数
第3学年	総合	天らん山ふしぎ発見	通年 46時間
第4学年	総合	ぼくたち飯能河原探検隊	通年 45時間
第5学年	総合	伝えよう 飯能・昔発見	通年 50時間
第6学年	総合	谷津田の里を守る—小プロジェクト	通年 50時間

※総合：総合的な学習の時間

本校の総合的な学習の時間では、3年生では天覧山、4年生では飯能河原・中平河原を中心とした入間川、5年生では飯能の歴史、6年生では天覧山内にある谷津田を通した飯能の自然を題材として学習を進めている。それぞれの学年で、体験活動を通して上記の単元で調べたいことを一人一人の児童が自ら課題設定をし、さらに体験学習したり、調べたりしてまとめ、発表をしている。その際、下学年が発表を聴き、来年度の参考にしている。また、生活科で1年生は学校周り探検、2年生は町探検を行っている。さらに、特別活動では、飯能河原や天覧山を巡るウォークラリーを縦割り班で行い、郷土について関心をもち愛着を深めるようにしている。

(2) 活動(単元)計画(第6学年 谷津田の里を守る一小プロジェクト)

学期	主な活動や作業	教師や地域の指導者からの指導・支援	「主体的・対話的で深い学び」の視点の工夫
一学期	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで総合的な学習の時間で学習した内容を回想する。 ・飯能市のゲストティーチャーから、谷津田の自然について学ぶ。 ・谷津田の田んぼの田植えを体験する。 ・谷津田についての話を聞き、田植え体験を通して「天覧山の谷津田」について考える。 ・田植えした田んぼの様子を見に行く。 (フィールドワーク) ・活動を振り返り、天覧山について、森を手入れする人々について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が飯能市や谷津田についての資料を提示する。 ○ゲストティーチャーが中心となり、現地に行き谷津田についての説明をする。 ○田植え体験の支援を行う。 <div data-bbox="671 824 1015 1077" style="text-align: center;">  </div> <p data-bbox="667 1084 1007 1115">【谷津田について学ぶ子供たち】</p>	<p>【主体的な学び】</p> <p>ワークシートや資料などの具体物を使ったり、体験活動をしたりして、子供の考えを引きだせるようにする。</p> <p>子供が地域の方から活動の内容を聞き、活動に生かせるようにする。</p> <p>【対話的な学び】</p> <p>体験を通して、子供が本単元の課題を決め、地域の方に伝えられるようにする。</p> <div data-bbox="1042 999 1378 1254" style="text-align: center;">  </div> <p data-bbox="1075 1261 1345 1292">【田植えを行う子供たち】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・森や自然を守り、自然とともに生きていくために自分に、できることを考え、課題を決める。 <p data-bbox="304 1541 649 1621">①木や生き物の環境を守る活動</p> <p data-bbox="304 1637 576 1668">②森を保護する活動</p> <p data-bbox="304 1684 635 1715">③谷津田の里を守る活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの体験活動やゲストティーチャーとの学習を通して課題を設定するよう促す。 ○自分の課題解決のためにどんな活動をすればよいのかを考えさせる。 	<p>【主体的な学び】</p> <p>学習の目標を示した後、子供自ら解決の方法を考えさせる場面を設けるようにする。</p>
二学期	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津田の稲刈りを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○稲刈り体験の支援を行う。 ○収穫をする楽しさや喜びを味わわせる。 	<p>【主体的な学び】</p> <p>子供自身が田植えをした稲を収穫することで、稲刈りをする意欲を高める。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・木や生き物の環境を守る活動をする。 (落ち葉掃き) ・森林を保護する活動 (森林の下刈り) ・森を保護するための話 ・谷津田の里を守る活動 (田の手入れ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○何に取り組むかを明確にし、児童が見通しをもちやすいようにする。 ・落ち葉を集めるポイント、集め方の留意点、落ち葉を集めることで、どんな効果があるのかを説明する。 ・下刈りの注意と説明をする。 ・児童に問いかけることでより地域の環境に対する考えが深まるようにする。 	<p>【主体的な学び】 子供が設定した課題に対して体験をさせることで、意欲を高める。 子供と地域の方と話す時間を設け、子供がアドバイスを生かせるようにする。</p> <p>【対話的な学び】 体験を通して、多様な情報や考えを収集したり、自分にはない異なる考えに気付かせたりできるようにする。</p>
三学期	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動を振り返り、活動の意味を考える。 ○他市町村での森林を守る活動の活動例を調べる。 ○よさや問題点から今後の取組について考え、提案する。 ○自分たちの提案を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○守るために自分にはどんなことができるのかを考えさせる。 ○今まで体験してきた活動と他地域での活動を照らし合わせ、自分たちが守っていくという意識をもたせる。 	<p>【対話的な学び】 グループになり話し合い、今まで調べてきたことや体験してきたことをまとめられるようにする。</p> <p>【深い学び】 自分の考えを文章等でまとめ、発表する時間を設ける。また、提案発表の際に、地域の方が質問する場面を設け、さらに考えを広げていく。</p>

4 学校と地域が連携・協働するまでの道のり

天覧山周辺の谷津田はかつて景観もすばらしく、動植物にとっても多様な生物の生育拠点地となっていた。しかし、人の手が入らなくなり、荒れ果て、鬱蒼とした状態となってしまった。平成19年度から地域の昔を知る多くの市民や事業者（はんのう市民環境会議【事務局：飯能市役所環境緑水課】）によって谷津田の再生、活動事業を実施し、かつての原風景を復活させようとしている。また、平成22年度から児童がこの活動を通して故郷の学習を行うようになった。

年度初めに「はんのう市民環境会議」と連絡を取り、打合せを行った。そこで、6年生の担任から今年度育てていきたい児童像と1年間の活動計画を提示した。これに対して双方で話し合いをして、本単元の活動方針と年間の活動計画を決めた。また、校外での体験活動では、その都度事前に打ち合わせを行い、「はんのう市民環境会議」の方に御指導いただいている。

「はんのう市民環境会議」のメンバーは飯能市エコツアーリズム課のエコツアーガイドも兼ねている方が多く、最近では他学年も連携をとり体験活動を充実させている。

5 学校と地域が連携・協働して子供を育てている場面

1学期に「はんのう市民環境会議」の方（10名）にゲストティーチャーとして来ていただき、谷津田見学、田植え体験を行った。子供たちは、谷津田見学を通して谷津田の自然を守る意義やすばらしさ、田植えを通して農家の方の苦労や伝統を学ぶことができた。

2学期は谷津田で稲刈り、間伐体験を行った。ここでも、「はんのう市民環境会議」の方に来ていただいた。稲刈りでは、子供たち自身が植えた稲を収穫する喜びや稲刈りの大変さを学んだ。また、間伐体験では、間伐をする意味や森林を人の手で守っていく体験をした。

3学期は、1年間お世話になった「はんのう市民環境会議」の方、保護者、下級生を招き、自分たちが体験したことや体験から学んだこと、これから谷津田・飯能市に貢献していきたいことを発表した。



【間伐体験の説明を受ける子供たち】



【間伐体験をする子供たち】



【発表をする子供たち】



【発表会をきく、地域の方と下級生】



【稲刈りをする子供たち】

6 成果と課題

(1) 成果

- 年間を通して、谷津田を守っている方がいることを知り、地域の方と自分達とのつながりを感じることができた。
- 子供たち自身が谷津田を守っていこうという意識をもつと同時に、谷津田に関して発信をしようという態度がみられた。

(2) 課題

- 子供が教師から与えられた活動をするが多くなっているため、子供たち自身が考えた活動をさせていきたい。
- 谷津田から飯能の自然を守るために必要なことへとさらに視野を広げて考えさせたい。

7 NEXT PLAN

他学年の「総合的な学習の時間」をさらに充実させるために、系統性をより明確にして、年間指導計画を立て直していきたい。そして、年度初めの「はんのう市民環境会議」の方との話し合いを全学年で行い、学年間で連携をとるとともに、体験活動の幅（学年ごとにステップアップをしていく）を広げていきたい。また、6年生で行う谷津田での活動を見直していきたい、与えられた活動にならないように、より主体的に学べるようにしていきたい。

地域の企業の方の職業観を感じる活動

－ 3年間を通して将来に対する目的意識を高める－

所沢市立狭山ヶ丘中学校

1 学校の概要、地域の特徴

本校は全校生徒510人、学級数15学級、教職員数42人の中規模校である。「自立と共生～・自ら学ぶ生徒（学ぶ意欲）・心豊かな生徒（思いやる心）・たくましい生徒（継続する力）～」を学校教育目標とし、～「夢と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動する生徒の育成」「地域と共に育つ学校づくり」～を目指す学校像とし、“はじめに子どもありき”を経営理念とする教育を行っている。

毎年行っているふれあい講演会は、地元や本校で関わりのある17の企業（下記参照）から、それぞれ講師を招聘し各講座に分かれ講演会を行う。

※企業は・薬剤師・看護師・保育士・栄養士・旅行社・新聞社・自衛官・弁護士・管制官
美容師・警察官・消防士・小売店・農業・アナウンサー・教員である。

2 目指した子供像

このふれあい講演会をとおして地域の大人の愛情を受け、信頼感を感じ、安心して将来を選択することができる生徒を育成していく。



3 活動の概要

（1）教育課程上の位置づけや時間数

学 年	教科等	単元・題材名等	時期・授業時間数
全学年	総合的な学習の時間	ふれあい講演会 ～地域の方の職業観に触れよう～	1学期 6時間

（2）活動（単元）計画

時数	主な活動や作業	教師や地域の指導者からの指導・支援	「主体的・対話的で深い学び」の視点の工夫
1	・オリエンテーション ①めあての確認 ②17の企業から自分の希望する企業を選択	○各学年のめあての提示 1学年『なぜ、わたしたちは働くのだろう』 2学年『働くことについて、達成できる価値（事柄）は何か』 3学年『職業人の職業観・勤労観・人生観に迫る』	【主体的な学び】 めあてを示したあとに、十分に考えさせる時間をとり、考えをワークシートに記入し発表する。

2	<ul style="list-style-type: none"> ・講演を聴く企業の職業調べおよび、質問を考える。 ・3年生は会場での準備・当日の進め方・司会台本の確認をする。 	<p>○自分が講演を聴く企業についてワークシートを利用し、しっかりと調べさせる。ICTを活用して調べることも促す。</p>	<p>【対話的な学び】 グループごとに調べたことや考えを発表させる。</p>
3 4	<p>・ふれあい講演会当日</p> <div data-bbox="316 562 1034 837" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>企業の方に事前に伝えておいた講演の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学時代に学ぶべきこと、身に付けておきたいこと ・その職業を選んだ理由・動機 ・その職業に就くために必要な資格や免許 ・その仕事の内容 </div> <div data-bbox="331 880 512 1115" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>講座番号12 消防士 3F第1理科室 講師</p> </div> <div data-bbox="557 880 855 1115" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="903 880 1315 1115" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="304 1149 1358 1211" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1年生から3年生で編成された小グループが、1つの教室で同じ講演を聴く。</p> </div>	<p>○以下の視点で講演をしていただく。</p>	<p>【主体的な学び】 講演会では、実物を見せる、演技をするなどといった工夫で、興味関心を持たせる。 写真は、消防士の方が実際の現場での服装で講演している様子。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会を通して学んだこと、講師の方へお礼の手紙を書く。 	<p>○ふれあい講演会を通して、感じたことや学んだこと、感謝の気持ちを込めて書くように指導する。</p>	<p>【深い学び】 自分の考えを文章でまとめる活動をとおして、考えの変容を確認させる。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい講演会各講座の内容を発表する。 <div data-bbox="288 1592 962 1877" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>～講演会の進め方～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①班毎に1人1分程度で発表 ②質疑応答（各班毎） ③学習活動テーマの話し合い（各班毎） ※共通点や相違点を考える ④各班話し合いの結果発表（各班代表者） </div>	<p>○各学年のめあてに沿っているかを確認しながら進める。</p> <p>○地域の方の協力によって成り立っていることをしっかりと触れる。</p>	<p>【対話的な学び】 各講座から学んだことを違う講座に参加した生徒にしっかりと伝えることができるようになる。</p> <p>【深い学び】 まとめとして、地域の方の協力によってこの講演会があることもしっかりと考えさせる。</p>

4 学校と地域が連携・協働するまでの道のり

約7年前から始まった取組であり、繰り返し実施できている背景には、企画と反省をしっかりと行っていることがある。その結果、企業の方も「子供たちのために」という想いが強くなっている。地域と学校の共通目標は、「中学時代に学ぶべきこと」「身に付けておきたいこと」「その職業を選んだ理由や動機」「その職業に就くために必要な資格や免許」を伝えることで、地域の子供たちのよりよい生き方・将来に対するイメージをもたせることである。

5 学校と地域が連携・協働して子供を育てている場面

講師の方が、どのようにしたら生徒が理解をしやすいか、ということを考え、大型テレビを使って視覚的にも分かりやすい講演をしてくださった場面である。また、板書においても、ただ書くのではなく、事前に掲示物を用意し、それを上手に活用している。これらの取組は、事前に学校側と講師側とで打合せ会と準備会を開いていることによる成果と考えられる。



【大型テレビを使いながら講演をしてくださる様子】

そのような連携と協働によって、生徒達も意欲的に講演会に参加し、熱心に耳を傾け、メモをとりながら参加している様子が伺える。

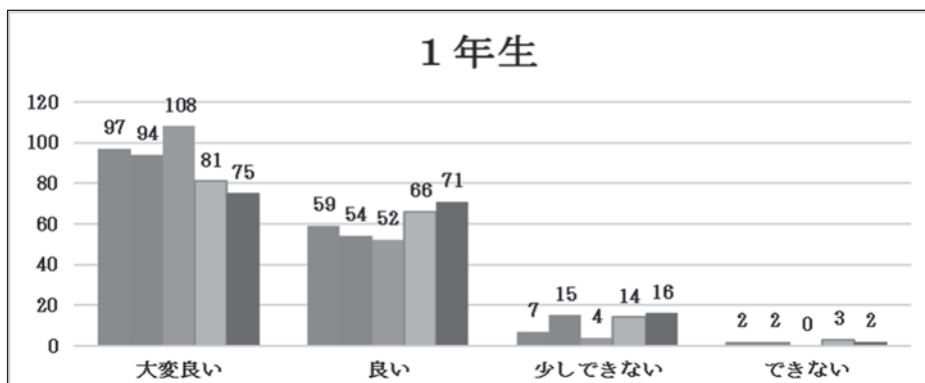
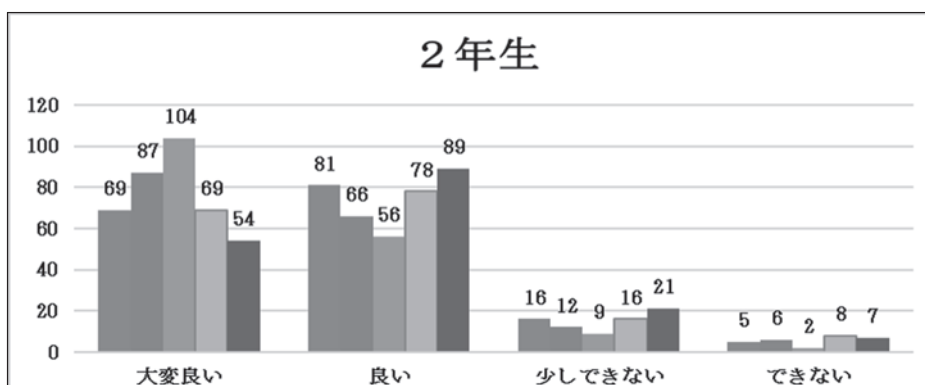
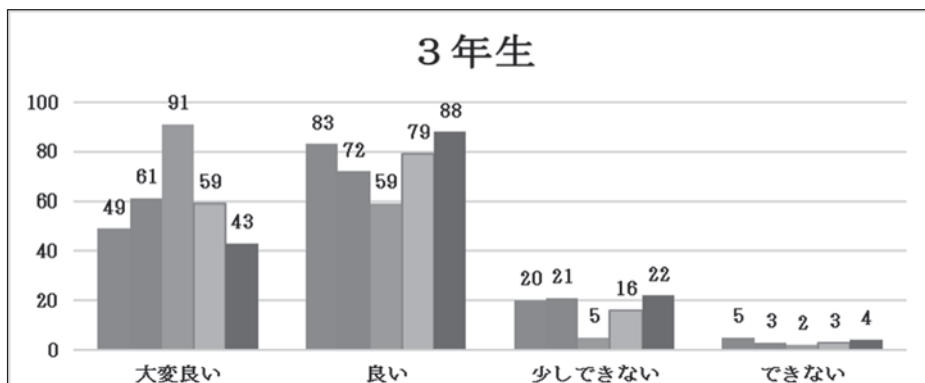
講演会を終えた生徒の感想として、「自分の仕事に誇りをもって全うできていることがとてもすごいと思ったので、自分もそういう職に就けたらいいと思った。」や「多くの人が自分の仕事に『やりがい』を感じていると思った。」「将来は『やりがい』を感じられる職業に就きたい。」などがある。

6 成果と課題

(1) 成果

- 地域の企業ということで、生徒にとって学びやすく、積極的に取り組むことができている。3年間を見通して実施しているため、少なくとも3つの企業に関わり、異なる職業観に触れることで、将来に向けて進路選択をする際に大きな手立てとなっている。
- 希望した企業にほとんどの生徒が行くことができているので、将来についてぼんやりとしていた生徒も、身近な存在へと変化していく様子もある。「今この時期に何をしておくべきか」ということも教師以外の実際に働いている方・地域の方が話すことによって、生徒自身も心に残りやすくなっている。
- 興味・関心をもった1年生から3年生までが同じ教室で学習するということは、普段の学校生活では味わうことができないことである。この授業では、短い時間ではあるが共に学びあうことで更なる成長を遂げている。特に、3年生は司会やお礼の言葉などの担当があり、中心となって当日の各会場での運営を行う。そのため、リーダーとしての意識付けにもつながっている。

◇ふれあい体験後アンケート結果



1 今日この授業（事後学習）で、テーマについての自分の考えは深まりましたか。

2 ふれあい講演会は、自分の将来を考えるきっかけになりましたか。

3 講師の方のお話はよく分かりましたか。

4 講師の方の職業調査・質問を考える）はできましたか。

5 事前学習を通してふれあい講演会への参加意欲・意識が高まりましたか。

(2) 課題

- 1つの講演の人数に限りがあるため、3年間の中で数名ではあるが希望通りにならない生徒もいるので、振り分けの工夫も必要となっている。
- 生徒の質や将来に対する夢や希望も、これからの時代によって変容していく。これからも継続していくには、企業や発表内容は毎回同じではなく、実態に応じて変えていけるような連携の在り方を築いていくことが必要となっている。

7 NEXT PLAN

2年生では「職場体験学習」へと繋げていく。「職場体験学習」の協力企業の中には、今回の講演会に参加しているところもある。そこで、系統性をもたせ、その後の進路選択へ繋がる取組とするため、より生徒が主体的に学べるようにしていきたい。

みんなで育てよう 秩父大好きちちぶっ子

— 地域に根ざした文化伝承的活動の推進の取組 —

秩父市立秩父第一小学校

1 学校の概要、地域の特色

秩父市は、埼玉県の北西部にあり、面積は、埼玉県全体の約15%を占めている。市域の87%が森林で、ほとんどは秩父多摩甲斐国立公園や武甲・西秩父などの県立自然公園の区域に指定されており、自然環境にめぐまれた地域である。また、市の中央を流れる荒川で東西に区分され、東部の平坦部分は市街地を形成し、商店街、住宅地などが集中している。本校はこの東部に属し、開校144年の伝統があり、地域に根ざした学校である。全校児童139名の小規模校であるが、学区内には教育資源が多く、多様な教育活動を推進できる環境にあるといえる。

2 目指した子供像

本校の学区内にある秩父神社は、平成28年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された「秩父祭の屋台行事と神楽」等、様々な伝統行事が今もなお、地域に伝えられている。しかし、児童は「秩父神社神楽」に触れ合う機会が少ないのが実際である。また、秩父市教育委員会では「秩父市学校創造グランドデザイン」を作成し、秩父ならではの特色ある教育を推進し、伝統芸能の継承活動にも重点を置いている。そこで、本校の郷土芸能クラブ（4～6年生）の活動時間に通年で練習している秩父屋台囃子や秩父音頭に加え、秩父神社神楽保存会の協力を得て「秩父神社神楽」を習い、発表する機会を設けることとなった。生きた伝統文化に触れさせ関心を高め、技能を伝承すると共に、郷土の伝統文化に誇りをもつ児童を育成したい。

平成30年度 秩父市学校創造グランドデザイン

【基本理念】 夢・志・誇りを持ち、社会を生き抜く力を身に付ける教育を推進することにより、秩父市への愛着、住み続けたいという想いを深め、秩父市のよさを継承し、秩父市の未来を担う人材を育成します。 <秩父市教育大綱より>

目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	目標Ⅱ 豊かな人間性と健やかな体の育成	目標Ⅲ 秩父ならではの特色ある教育活動の推進	目標Ⅳ 質の高い教育の推進
重点目標 ○ 新学習指導要領への対応 ○ 一人一人の能力を伸ばす教育の推進 ○ ICT・英語教育の推進 ○ 家庭の教育力の向上 主な取組内容 (1) わかりやすい授業の実施 ○ユニバーサルデザインの視点による学習環境の整備と授業改善 ○校内研修の充実 ○指導方法の工夫・改善 (2) 学力向上の取組の推進 ○秩父市授業改善リーフレットの活用 ○ICTを活用した教育推進事業の推進 ○チャレンジスクール事業の推進 (3) 各種学力調査の分析と活用 ○全学年学力・学習状況調査の検証 ○埼玉県学力・学習状況調査の検証 ・一人一人の学力の伸びの把握 (4) 英語教育の強化・充実 ○英語土曜学習事業 ○英語指導助手事業 ・ALT、外国語活動コーディネータの配置 ○外国語活動・英語科研修会の実施 ○小学校外国語活動授業づくりプラットフォームの活用 (5) 家庭学習・読書活動の習慣化 ○目標設定による家庭学習時間の増加 ○目標設定による読書量の増加 ○読書と家庭学習との連携強化 ○学校図書館の活用、司書教諭補助員の配置	重点目標 ○ 生徒指導の充実 ○ 道徳教育・人権教育の推進 ○ 健康と体力の向上 ○ 特別支援教育の充実 主な取組内容 (1) いじめ・不登校対策の充実 ○積極的な生徒指導の推進 ○生徒指導育成プログラム研修会の実施 ○関係諸機関との連携の強化 (2) 道徳教育・人権教育の推進の充実 ○「特別の教科 道徳」の実施に向けた対応 ○地域の教育資源を活用した授業の推進 ○「心の室の連携」、人権教育育成プログラムの活用 (3) 体力の向上と学校体育活動の推進 ○新体力テストの分析と一人一人の課題に応じた体育授業の改善 ○「早寝・早起・朝ごはん」運動の推進 ○オリンピック・パラリンピック教育の推進 (4) 教育相談体制の充実 ○さわやか相談員制度の充実・強化 ○スクールソーシャルワーカーの配置と活用 ○臨床心理士の配置、ひまわり教室の活用 (5) 特別支援教育の推進 ○特別支援学校との連携による就学支援体制の強化と交流及び共同学習（支援課）の推進 ○特別支援教育補助員の配置等、発達障害等への支援の充実 ○特別支援学級・通級指導教室の指導の充実	重点目標 ○ 秩父のよさを実感できる体験活動の推進 ○ 伝統芸能・文化の継承と人材育成 ○ 地域教育力活用事業の推進 ○ 学童保育室・ふれあい学校の充実 主な取組内容 (1) 体験活動の重視 ○体験的な学校行事の推進 ○中学生社会体験チャレンジ事業の推進 (2) 秩父の魅力発見・体験事業の推進 ○「伝統文化に親しむ日」における取組 ○ユネスコ無形文化遺産「秩父祭」の継承と発信 ○ジオパークを活用した体験学習への支援 ○環境保全や資源の有効活用に係る意識の醸成 (3) 秩父大好き人間育成事業の推進 ○伝統芸能伝道師の称号授与 ○伝統芸能継承活動の取組 (4) 地域教育力活用事業の推進 ○チナアフタースクール・スタディの取組 (5) 学童保育室とふれあい学校の充実 ○学童保育員研修会による充実 ○学童保育室とふれあい学校の一体的実施の推進（共通プログラムの作成・実施） ○学校補助員の配置 ○学童保育指導員研修会による充実 ○S・C・S・S・W等による学校支援 ○学校の小規模化への対応 ○小規模校のよさを生かした教育活動の研究	重点目標 ○ 教職員の資質 ○ 安全・安心の確保 ○ 学習環境の整備 ○ 新たな課題への対応 主な取組内容 (1) 幼保小中の連携 ○就学前教育の充実 ○接続期プログラムの活用 ○切れ目のない教育 (2) 各種研修会の活用 ○学力調査等 ○若手教員育成 (3) 地域との連携 ○自転車通学 ○地域と連携した学習活動 ○主体的に行動 (4) 新たな課題への対応 ○ICT ○チーム学校として ○S・C・S・S・W等による学校支援 ○学校の小規模化への対応 ○小規模校のよさを生かした教育活動の研究

重点目標

- 秩父のよさを実感できる体験活動の推進
- 伝統芸能・文化の継承と人材育成
- 地域教育力活用事業の推進
- 学童保育室・ふれあい学校の充実

(3) 秩父大好き人間育成事業の推進

- ◇ 伝統芸能伝道師の称号授与
- ◇ 伝統芸能継承活動の取組

3 活動の概要

(1) 教育課程上の位置付けや時間数

学 年	教科等	単元・題材名等	時期・授業時間数
郷土芸能 クラブ	総 合	秩父屋台囃子【伝統文化】	4～9月頃 5時間
		秩父音頭【伝統文化】	4～9月頃 5時間
		秩父神社神楽【伝統文化】	10～12月 5時間


※ 総 合：総合的な学習の時間

(2) 児童の実態

郷土芸能クラブに入っている児童は、地域でも秩父屋台囃子の保存会に所属する児童が多く、希望理由も「太鼓やお祭りが好き」という理由がほとんどであった。そのため、秩父神社で初神楽を舞うにあたっては、最初は「難しそう」「恥ずかしい」などの声が聞かれ、練習にも消極的であった。しかし、神楽保存会の方の熱心且つ丁寧な指導に触れ、子供たちの意識も変わり始め、練習にも熱が入り、神楽殿で舞うことを楽しみにする姿が見られるようになってきた。特に、6年生の真剣に練習に取り組む空気が下級生にも広がり、今では郷土芸能クラブの大きな活動の柱となってきている。

(3) 活動（単元）計画 ■時間計画

時数	主な活動や作業	教師や地域の指導者からの指導・支援	「主体的・対話的で深い学び」の視点の工夫
1 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秩父屋台囃子、秩父音頭、秩父神楽の歴史や技能についての理解を深め、めあての確認をする。 ・ 秩父屋台囃子 ・ 秩父音頭 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秩父屋台囃子保存会の方の演奏を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの演奏と違うところを気付かせる。 ・ 秩父屋台囃子・秩父音頭の歴史について理解させる。 ○ 秩父音頭について、背景や歌詞の意味について学び、秩父音頭に込めた昔の人の思いを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊作を願った唄だと説明し、歌詞を大切に歌うようにさせる。 	<p>【主体的な学び】</p> <p>学習のめあてを示し、児童自ら解決（技能向上）の方法を考えさせる場面を設ける。</p>
<p>秩父屋台囃子・秩父音頭とは？</p> <p>秩父屋台囃子は、江戸時代より秩父地方に広く分布し、それぞれの地区で古くから伝承され、祭礼で演奏されてきた祭り囃子である。楽器は大太鼓1、小太鼓3又は4、鉦1、笛1を基本編成とする。また、秩父音頭は埼玉県西部、秩父郡皆野町を中心に歌われてきた盆踊りの唄。伴奏に秩父屋台囃子の手が入る。</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> 秩父神楽 	○秩父神楽について知る。	
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>秩父神楽とは？</p> <p>秩父神社に伝わる神楽は「神代神楽」とも呼ばれ、35座の演目がある。この神楽の大きな特徴は、一般の里神楽と異なり、高天原神話や出雲神社など古典神話を題材にしているところにある。</p> </div>		
6 ～ 8	<ul style="list-style-type: none"> 計画の見直し 神楽演目の決定 二人舞 『代参宮 御神楽奉仕』 三人舞 『罪穢は抜ひ清む』 	○学校と地域とで、児童の実態に合わせて、演目の決定をする。演目の演者については、子供と相談し決定する。	【対話的な学び】 子供と地域の人で対話できるようにする。
9 ～ 13	<ul style="list-style-type: none"> 発表に向けて 運動会 秩父神社初神楽 	○練習環境を整え、子供が自主的に練習できるようにする。 ○クラブの他に練習時間を設け、発表に向け技能を向上させる。	【深い学び】 子供同士でお互いの演奏や舞を聞いたり見たりして、良いところや修正箇所を話し合わせる。
14 15	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 当日の発表 ふりかえり 伝統芸能伝道師の称号授与 	○子供の傍に待機し、安心して発表できるようにする。  ○伝統芸能伝道師に推薦し、取組への努力を最大限に賞賛する。	【深い学び】 発表の前後での気持ちの変化を話し合わせる。また、発表して良かったことを伝える場を作り、クラブ外の児童に伝統芸能の素晴らしさを知ってもらう。

4 学校と地域が連携・協働するまでの道のり

今回の取組、特に秩父神社神楽については、平成26年度、当時のPTA役員の方より「子供たちに、秩父の伝統芸能を見せてあげたい」との提案があり、芸術鑑賞会として、本校体育館に仮の舞台を組み、神楽を披露したことから始まっている。その後、継続した取組ができないか、学校と地域の思いを話し合い、協議を重ね、クラブ活動の一環として取り組むことが決まった。平成28年度より、年5時間程度計画に位置づけ、同年12月のユネスコ無形文化遺産の登録に伴い、秩父神社神楽殿において1月2日に初神楽を披露する運びとなった。

5 学校と地域が連携・協働して子供を育てている場面

【秩父屋台囃子】

4月から、運動会までは、郷土のお囃子である秩父屋台囃子のけいこを地域の方に指導していただいている。運動会では、秩父音頭のお囃子と秩父音頭の生歌を披露し、本校の伝統に位置づけられている。子供たちも、地元の伝統を理解し、親しみを感じている。また、児童は、夏と冬にあるお祭りで屋台囃子を演奏し、祭りに参加している児童も多く、地元で伝わるお囃子を大切にしている。

【秩父神社神楽】

29年度は、秩父神社神楽保存会の協力を得て、運動会後のクラブ活動から練習を始めた。1月2日の初神楽に向けて12月に入ると、業前に練習を行ったり、冬季休業前に神楽殿で練習を行ったりもした。神楽保存会の方には、毎回4～5名の方に協力をいただき、その都度、細かく指導していただいた。



【運動会での屋台囃子】



【秩父音頭の生歌披露】



【初神楽に向けた練習】

6 成果と課題

(1) 成果

- 児童は、外部指導者の方々に教えてもらうことで、地域の人々と交流を深めたり、自分の住んでいる地区を見直す機会をもつことができた。
- 平成31年1月2日に実施した秩父神社初神楽では、多くの観衆の前で、練習の成果を神楽殿披露することができた。どの児童も自信をつけたり、またやってみようという意欲をもったりすることができた。

(2) 課題

- 児童が減少する中で、秩父神社神楽を始めとする伝統芸能等を受け継ぐ活動を総合的な学習の時間でのテーマとして設定し、全校児童が体験できるような設定も考えていきたい。

7 NEXT PLAN

子供たちにとって、今回の経験は、外部指導者の方々と触れ合うことで、交流を深め、自分の地域を見直し、“郷土秩父”のすばらしさに気付くよい機会となった。1月2日に実施した秩父神社初神楽でも、練習の成果を神楽殿で披露することができ、見ていただいた方からあたたかい拍手をいただき、子供たちの自信につながった。総合的な学習の時間の年間計画を見直して学年での取組にすると共に、PTAと連携し地域情報についてもいち早く情報を入れていただけるよう依頼することで、地域に根ざした文化伝承的活動を推進していきたい。

学校と地域が連携した文化体験学習

— 秋桜祭 『神中文化の日』を通して —

神川町立神川中学校

1 学校の概要、地域の特徴

本校は、生徒数330名、各学年3クラス、特別支援学級2クラスの計11クラスで、埼玉県北西部に位置している。「学力をつけ 身を律し 体を鍛え 和を築く」の学校教育目標を実現するために、「生きる力」を育む授業の実践、「絆」を深め自立する力の育成、魅力ある教育課程の編成・実施・評価と創意工夫した実践に努めている。

神川町は、群馬県境を神流川が流れ、この神流川が形成する扇状地に広がっている。町内には神秘的な数々の花スポットや伝統的な祭りがあり、金鑽神社や城峰公園、下久保ダム等の観光名所がある。また、特産品として梨が有名で、毎年8月上旬から9月下旬にかけて、町内の国道や県道沿いに梨の直売所が並ぶ。

2 目指した子供像

文化体験学習『神中文化の日』を通して、地域からの伝統文化の継承や昔ながらの風習、また、地域で取り組んでいる活動等を実際に体験することになる。そこで得ることができる基礎的な知識・技能や、他人とともに協調し、感動する心などの豊かな人間性を今後の人生や社会に生かしてもらいたい。そして、学校と地域が連携・協働の下、幅広い地域住民等とともに、地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する活動を進めながら、今回の調査研究「地域の愛情を受けて自分に自信を持つ子供」に迫ることができるようにしたい。

3 活動の概要

(1) 教育課程上の位置付けや時間数

学 年	教科等	単元・題材名等	時期・授業時間数	
全学年	総合的な 学習の時間	「神中文化の日」文化体験学習	6月	1時間
			7月	1時間
			9月	3時間

(2) 活動（単元）計画

時数	主な活動や作業	教師や地域の指導者からの指導・支援	「主体的・対話的で深い学び」の視点の工夫
1	文化体験学習の意義 ・ねらいの明確化 ・文化体験講座の希望調査	○文化体験学習の目標・ねらいを明確にし、生徒の意欲を高める。	【主体的な学び】 学習の目標を示したあとに、子供自ら解決の方法を考えさせる場面を設ける。
2	オリエンテーション ・当日までの学習の見通し	○文化体験学習の心構え・当日までの日程を説明し、意識付けを行う。	

3 4	神中文化の日 ・各文化体験学習の実施	○体験講座ごとに分かれて、実施する。	【対話的な学び】 子供同士が互いの考えを比較検討しながら、他の生徒の考えを取り入れて解決させるようにする。
5	振り返り ・お礼の手紙の作成	○文化体験学習を通した振り返りをする。	【深い学び】 自分の考えを文章等でまとめる活動を適切に取り入れ、考えが変容したことを確認する。

4 学校と地域が連携・協働するまでの道のり

- (1) 実施3ヶ月前
- 文化体験学習各担当教員から講師の方への体験学習開設の可否の問い合わせをする。16講座(水墨画、バルーンアート、ダンベル、浴衣着付け、手編み、太鼓、cooking教室、ヨガ教室、お茶、三味線、手話、中国結び、スポーツ吹矢、フラワーアレンジメント、将棋、飛ぶおもちゃづくり)
 - 全校生徒対象に文化体験学習のねらいを明確にし、希望調査を実施する。その後、文化体験学習の人数振り分けを行う。

平成30年度 神中文化の日

秋桜祭体験講座 希望調査 ()年()組 巻数()

1〜16講座の中から、自分の希望する講座の番号と講座名を必ずすべて書き下し。(希望者が集まると希望の講座に入れないことがあります。)費用がかかる講座と、からない講座がありますので注意して下さい。また、各自で道具を準備する講座もあります。体験講座の費用は8月31日(金)放課後の体験講座事前打ち合わせで集金します。

番号	講座名	費用	実施人数	期定	生徒が準備するもの	備考(準備)
1	水墨画	なし	25	第1期(初)	習字セット、墨汁(瓶)、墨すり鉢、筆(1本) 乾かしの筆、線画のペン(チョーク)	水墨画が、墨絵時代から江戸時代までと長らく続いた「心象画」で多くは文芸、墨一筆で描かれた画で、書き手が自分の感情を表現し、思いを込め込んで丁寧に描いていきます。
2	バルーンアート	300	40	全学1,2年生	なし	バルーンアートの体験講座です。実際に式や装飾などをバルーンで楽しくつくります。
3	ダンベル	なし	30	既習講座	タオル、伸縮紐、巾着	ダンベルを使った簡単なトレーニングです。ダンベルが先生が用意してくださいます。
4	浴衣着付け	なし	20	既習講座	浴衣、帯、履き草履、着付け袋、タオル、髪飾り、コラーゲン化粧品(顔用) シャンプー、ハンドソープ	「浴衣デビューしたいけれど、着方がわからない。V」! というあなた、自分で着付けの楽しさやコツを学んで、ぜひチャレンジしてみてくださいね! 別途用意した浴衣をお貸しします。
5	手話	100	20	3年生	なし	今学校で話しかけられないでいる生徒もいます。聴覚障がいや身体障害のある人もいます。お互いの意思をこまめに伝え合えるようになりませんか、興味のある人参加してください。
6	太鼓	なし	20	既習講座	タオル、練習用、ラベーター、練習用	練習用で練習用で行われている太鼓の体験講座。今夏を神中文化祭開演会の方に向けてお出し出で練習もします。天の守り神、おん八咫鏡を奉りて打つ神とし、おそろしい神様に心をこめて練習します。

7	Coaching教室	300	32	講座定	エプロン、ハンカチ	イタリアの美味い料理やお菓子を作ります!
8	飛行機	なし	20	既習講座(1)	なし	飛行機の仕組みや、自分の机を体験します。機内での過ごし方についても、ぜひ体験してください。
9	お茶	300	30	既習講座	新聞紙類	茶の淹れ方や淹れ方についても学べますが、高いレベルの淹れ方を紹介します。お茶の淹れ方のコツをお伝えしていきます。
10	三味線	なし	20	既習講座	なし	自分の得意な三味線「三味線」で様々な曲を演奏します。三味線の音色や奏法にも興味がある方は、この機会ぜひ体験し「三味線」の楽しさを体験してください。三味線は、三味線師の技と、三味線師の心で演奏されます。
11	手紙	なし	30	3年生	なし	思いやりの気持ちを表現できるように練習していきましょう。また、生活の中で手紙を書くことについての話し合いも行っていきます。
12	中国結び	700	30	3年生	結び紙	1年時からクリスマスリースを作ります。中国結に合わせた結び方を体験してあげませんか? 簡単な結び方で、お祝いで使えます。一緒に楽しみましょう。
13	スポーツ吹矢	400	15	既習講座	タオル、ボール	競技、吹矢を両方でも経験でき、ゲーム感覚で楽しむのが吹矢の楽しさです。吹矢のルールや射法についても学べます。吹矢の楽しさを体験してください。吹矢の楽しさを体験してください。
14	フラワーアレンジ	800	20	既習講座	両手袋、エプロン、花瓶、花材	先生が用意した、お花の知識や、お花の飾りつけの楽しさを体験してください。お花の飾りつけの楽しさを体験してください。
15	将棋	200	20	既習講座	なし	将棋が好きな人も、まだ将棋がわからない人も歓迎です。将棋のルールや、将棋の楽しさを体験してください。将棋の楽しさを体験してください。
16	花かみアート	50	15	3年生	たこ糸	お花の飾りつけの楽しさを体験してください。お花の飾りつけの楽しさを体験してください。

【体験講座希望調査用紙】

- (2) 実施2ヶ月前
- 生徒に対し、文化体験学習の割り振りを発表し、どの文化体験学習をするのかを確認させる。
 - 文化体験学習の講座ごとに、オリエンテーションを行う。
(心構え、当日までの日程説明、責任者選出、当日の準備等の確認)
 - 文化体験学習の責任者から講師の方へ、連絡をする。
(あいさつ、当日の説明、講座希望人数、準備等の確認)
- (3) 実施1ヶ月前
- 文化体験学習各担当教員から講師の方へ、再度連絡をする。
- (4) 実施1週間前
- 文化体験学習の講座ごとに最終打合せを行う。
(当日の準備等の最終確認、費用の集金等)
 - 当日に必要な用具の搬入、会場作りを行う。

5 学校と地域が連携・協働して子供を育てている場面

(1) 自己の学習活動を振り返って次につなげる学び

○ 文化体験学習を受講するにあたって、これまでの生活体験の中で自分が何を知っているのか、どのようなことを実際に体験したことがあるのか等を担当教員が引き出すことにより各講座に向けての生徒の意識が高まった。

○ 講師から資料や模型などの具体物（バルーンアートや水墨画、フラワーアレンジメント等）を使って説明したことにより、生徒が意欲的に取り組む姿が多く見られた。太鼓やお茶、スポーツ吹矢等は講師が生徒の前で実際に実演し意識付けを行った。その結果、生徒はどうすればそのように演技できるのだろうと様々な考えが出て、自己の学習活動を振り返りながら体験学習を行うことができた。

○ 当日の各講座の運営（司会、開会・閉会のことば、お礼のあいさつ等）は生徒が行った。お礼のあいさつでは、自らの体験学習を振り返り次につながる新たな思いや上手に作成・演技するためのポイントなどを交えて、わかりやすく講師に伝え、考えをまとめることができた。

(2) 子供同士の協働、地域の人との対話での学び

○ 生徒は講師から指導を受けるだけでなく、講師との対話を通じて、体験学習に取り組むことができた。生徒が直接講師と触れ合うことで、多様な情報や考えを収集して、これまでの生活の中で初めての体験から、自分にはない異なる考えや作法などに気付き、自己の考えを広げ深めることができた。

○ 生徒は講師の作品・実演を見て学ぶだけでなく、制作等の途中で、友達の作品例を参考にして体験学習に取り組んだ。生徒同士が互いの考えや作品を比較検討しながら、友達の考えを取り入れ、課題解決することができたので、つながりのある双方向の対話が実現できた。

(3) 知識を相互に関連付けてより深く理解する学び

○ 教員は、生徒が多様な活動ができるような講座を設定した。講師は、どうすれば作品例のような物が制作できるのかを考え、探求的な活動を取り入れ、生徒の質問に対して切り返したり問い直しをしたりして、生徒によく考えさせる



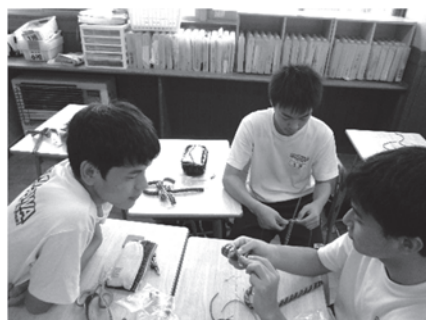
【資料を参考に製作する生徒】



【講座を運営する生徒】



【講師から作法を学ぶ生徒】



【友達の作品から比較検討する生徒】

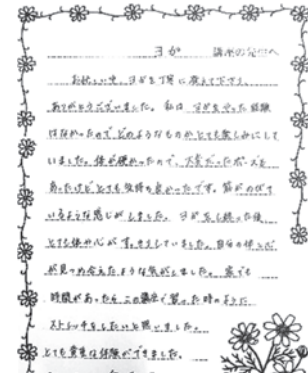


【講師との対話から学ぶ生徒】

体験学習を行った。また、多様な作品や考え方を導くことができる体験活動の設定も行った。

生徒『どうすれば上手に弾くことができますか』
講師『腰と右肘で三味線を固定して引くと、今まで以上に良い音が出て、左手の移動もスムーズになるよ』
【三味線での生徒と講師との対話例】

- 体験学習を終えた翌週に、講師にお礼の手紙を書いた。手紙の書き方の指導とともに、自分の考えを文章でまとめる活動（要約・説明・感謝・期待等）を適切に取り入れ、生徒の講座に対する考えが変容したことを確認できた。多くの生徒は、『またやってみたい』『ありがとうございました』等の期待・感謝の内容を手紙に書いていた。



【お礼の手紙】

6 成果と課題

(1) 成果

- 生徒は普段生活する上で接することが少ない体験学習を行い、アンケートの中で「またやってみたい」「来年は違う講座で地域のことをより知りたい」等の回答があり、地域の活動等に興味や関心をもつことができた。また、自己の学習活動を振り返って「主体的な学び」の実現に近づくことができた。
- 生徒は子供同士の協働、地域の講師との対話を通して、体験学習を行うことができた。対話等を通じて、多様な情報や考えを収集して、自分にはない異なる考えに気付くことができ、友達の作品等を比較検討しながら、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現に近づくことができた。
- 生徒は地域の講師から愛情を受けた指導により、公民館や施設等での活動に直接触れることができた。その結果、生徒自身が「自分でも制作することができた」「普段、体験することがなかったので知識が広がった」というような、自分に自信を持つ・豊かな人間性を持つ子供に近づくことができた。

(2) 課題

- 16講座を開設しているが、人気の講座に希望が集中してしまい、希望している講座を選択できない生徒がいる。各講座の人数配分や振り分けを綿密に計画、実施していく必要がある。

7 NEXT PLAN

今回の文化体験学習では、講師61名の方が来校され、生徒に指導することができた。学校と地域がより連携するために、この文化体験学習を大きく告知することで、保護者・地域の人に多く来校してもらい、この取組を地域に根差したものとして定着させていきたい。

教育課程における伝統文化体験活動の位置づけ

—地域人材との連携を活かした体験活動—

白岡市立南小学校

1 学校の概要、地域の特徴

本校は、白岡駅周辺の閑静な住宅街、東北自動車道を隔てての農村地域と広い地域を学区としている。開校44年目を迎え、現在22学級、児童数は723名の白岡市で一番大きな学校である。

本校では、「笑顔いっぱい、光かがやく南の子」～笑顔あふれ、共に学び・共に笑い・共に成長できる学校～を教育目標に掲げ、「意欲と思いやりにあふれ、進んでやるとおす児童」の育成を目指し、日々教育活動を進めている。

保護者や地域は、学校の教育活動に非常に強力的であり、学校応援団、南地区育成会、おやじの会、その他各種行事で多くの方々の御協力をいただき活動が行われている。

2 目指した子供像

本校の目指す児童像「意欲と思いやりにあふれ、進んでやるとおす児童」の育成のため、地域と共に歩む学校づくりを目指す。「地域の愛情を受けて自分に自信を持ち、他者を思いやる子供」「自分の故郷を感じ、その一員であると自覚する子供」を学校と地域が連携・協働した教育活動によって育てていく。

3 活動の概要

(1) 教育課程上の位置づけや時間数

学年	教科等	単元・教材名等	時期・授業時間数
第3学年	総合的な学習の時間	伝えよう私たちの白岡市	4月～11月頃 24時間

(2) 活動(単元)計画

時数	主な活動や作業	教師や地域の指導者からの指導・支援	「主体的・対話的で深い学び」の視点の工夫
1 2	・オリエンテーション	○事前にゲストティーチャーとの打ち合わせを行い、学習の趣旨や触れてもらいたい内容を確認する。	【主体的な学び】 子供自身が課題解決にあたり、自分が何を知っているのか(知らないのか)、どのような

	・お礼の手紙		解決方法があるのかを自覚させる。
3 4	・白岡市に関する課題	○自分の住む地域について課題を考えるようにする。	【対話的な学び】 子供同士が互いの考えを比較検討しながら、他の児童の考えを取り入れて解決できるように対話させる。
5 ～ 9	・グループでの調べ活動	○司書教諭とも連携し、白岡市に関連した資料を用意してもらう。	【深い学び】 児童が多様な答えや考え方を導くことのできる課題を設定する。
10	・中間発表会	○画用紙1枚にまとめ、発表できるようにする。	【対話的な学び】 自分とは異なる考えに気付かせるようにする。
11 12	・計画の見直し ・ゲストティーチャーへの質問会	○事前にゲストティーチャーとの打ち合わせを行い、学習の趣旨や触れてもらいたい内容を確認する。	【対話的な学び】 子供の発言に対して、切り返したり、問い直したりして、子供によく考えさせる。
13 ～ 17	・同じグループごとに計画を立てる。 ・同じ課題ごとにグループをつくり、計画を立てる。	○ワークシートを使い、具体的にイメージできるようにする。 ○全体での話し合いの時間を設け、いくつか絞るようにする。	【主体的な学び】 ワークシートや資料、具体物などを使って、子供の様々な考えを引き出す工夫をする。
18 ～ 25	・同じ課題ごとのグループ活動	○何に取り組むのかを明確にさせ、児童に見通しを持たせて取り組ませる。	【深い学び】 自分の考えを文書等でまとめる活動（描写・要約・説明・記録・報告等）を適切に取り入れ、考えが変容したことを確認する。
26 ～ 28	・発表会（交流会） ・振り返り	○画用紙か模造紙にまとめ、各クラスでブースをつくり、発表するグループと聞くグループに分けて交流できるようにする。	【対話的な学び】 子供が一方通行の話をするのではなく、質問する活動を効果的に入れながら、つながりのある双方向の対話になるようにする。

4 学校と地域が連携・協働するまでの道のり

この取組を始めたころは、「ささら獅子舞」を一度も見たことがないと答えた児童が半数以上いた。ささら獅子舞について担任が話をしても、イメージがわからない様子であった。そこで、児童から出た様々な疑問を、事前に担当者の方にお知らせして話してもらおうと考えた。実施1ヶ月前に担当者に来校していただき、単元全体の指導計画や当日の内容や進め方について詳細な打合せを行うようにした。なお打合せは、業務の効率化を図るため、郷土文化研究クラブの指導で学校にお越しいただいた際に行うように変えていった。

学校と地域は、基本的にWinWinの関係でなければ、その取組は長続きしない。そのため、打合せをする際に心掛けていることは、まず地域の方の意見を聞くことである。そして、相手の意図やメリットを考慮したうえで学校側から提案するようにしている。

この取組が始まった当初は、内容については担当者任せだったこともあり、こちらが求めている内容とは違う話をいただくことがあった。そこで、取組前の打合せや取組後の反省を丁寧に行い、その内容を次年度に引き継ぐことを繰り返していった結果、年々内容が深まっている。また、お互いの意思疎通や情報交換が活発になり、連携・協働が深まってきている。

5 学校と地域が連携・協働して子供を育てている場面

白岡市について学習していくことを児童に伝え、学習の見通しをもたせるために、事前指導に講師を招き、ささら獅子舞の歴史や文化などについて話を伺う機会を設けた。

その後、3年生は、総合的な学習の時間で「ささら獅子舞」について学習する。その学習で興味をもった児童は、4年生からのクラブ活動で「郷土文化研究クラブ」に入部する子も少なくない。また、3年間活動したのちに、中学校からそのまま保存会に入会する子もいる。なお、郷土文化研究クラブでは、週1回のクラブ活動で保存会の方が指導に来てくださり、練習を行っている。

2年に1度、4月に行われる「小久喜神社奉納」は一大イベントであり、3月頃から週3回夜に集会所に集まり練習を行っている。保存会の方の中には、南小の自治会長や卒業生も多く、他の学校教育活動の場でも関わりが多い。そのため、児童に対して同じ地域の一員として一緒に頑張っていこうという接し方をしてくださっている。

11月に行われる「ふるさとまつり」「わんぱく笑店街」、国内や海外から獅子舞が集まる「全日本獅子舞フェスティバル」などに参加し、伝統文化の伝承を行っている。ここでも、地域の方は、児童が祭りに堂々と参加できるよう、練習から丁寧に声かけをしてくださっている。そのおかげで、児童は安心して取り組むことができるとともに、地域



【ささら体験と道具体験】



【郷土文化研究クラブが
参加している小久喜神社奉納】

のために貢献したいという気持ちの面が大きく成長している。



【児童が堂々とできるように常に声掛けをしてくださる様子】

6 成果と課題

(1) 成果

- 地域の特徴を知り、自分が地域の一員という意識が高まった。また、意欲の向上につながった。
- 児童は、外部指導者の方に教えてもらうことで、地域の人々との交流を深めたり、自分の住んでいる地区を見直す機会をもったりすることができた。
- 自分の地域で行われているお祭りを調べることにより、これまで何となく参加していたお祭りの由来や意義、地域の方の思いを知ることにより、よいお祭りに参加しようという意識をもつ児童が増えた。
- 体験活動や調べ学習を通して知った地域の特徴を、自分の言葉で感想にまとめることができた。

(2) 課題

- 地域連携のコーディネータの育成し、複数で対応できるようにする必要がある。
- 児童に対し、更なる主体性が身に付くよう育成していく。
- 本取組を教育課程へ位置付けるようにして、この活動を持続可能な形にしていく。

7 NEXT PLAN

一人の教員に負担がかかり過ぎないように、複数教員で対応できる更なる指導体制の充実を図る。また、広報活動を充実させ、家庭や地域に「伝統文化体験活動」を周知するとともに、学校の特色のある教育活動としてアピールしていく。また、今年度、白岡市に生涯学習センター「こもれびの森」が完成し、白岡にある歴史資料が一か所に集約されたので、今後は歴史資料展示室を有効的に活用し、行政との連携を図りながら教育活動を進めていくことも模索していきたい。

義務教育学校開校に向けた地域との協働

—地域の思いを引き継いで—

春日部市立江戸川中学校

1 学校の概要、地域の特徴

本校は、埼玉県東端に位置し、江戸川を背にさいたま市に隣接している。昭和27年に富多村立富多中学校と宝珠花村立宝珠花中学校が統合し、富多村宝珠花村学校組合立江戸川中学校として開校し、創立67周年を迎える。年々、生徒が減少し、現在、全校生徒数60名の小規模校であり、平成31年度に富多小学校（明治25年開校・創立126周年）と宝珠花小学校（明治6年開校・創立145周年）と一緒に埼玉県初の義務教育学校、春日部市立江戸川小中学校となる。

環境としては、日本一の大凧あげ祭り会場の近くにあり、緑豊かな田園に囲まれている。家庭・地域の協力も盛んで、純朴な生徒が多い。人数が少ないため、生徒同士の関わりが深く、他校と比べて、個々の結びつきが強い。大勢とふれあう経験が少なくなりがちだが、「少人数だからできることをどんどんやってみよう」をモットーに様々なことにチャレンジしている。このような環境の中、本校では家庭・地域と協働して伝統と校風を継承し、生徒が自信をもって自らの人生を切り拓くことができる教育活動を展開している。

2 目指した子供像

本校が開校するに当たり、地域の強い思いを生徒に知らせ、その思いを受けて、具体的に何をしていくかを考えさせることで、地域を愛し、地域のためにがんばれる生徒を育てたい。

3 活動の概要

(1) 教育課程上の位置付けや時間数

学年	教科等	単元・題材名等	時期・授業時間数
全学年	総合 特活	有終の美を飾ろう！ ～みんなで新しい学校をつくろう！～	1年間 15時間

※ 総合：総合的な学習の時間 特活：特別活動

(2) 活動（単元）計画

時数	主な活動や作業	教師や地域の指導者からの指導・支援	「主体的・対話的で深い学び」の視点の工夫
1 2	・オリエンテーション 有終の美を飾るには	○今年度で廃校となり、来年度から新しい学校となることを確認し、関心・意欲を喚起する。 ○出た意見を生徒会本部が集約し、全校に伝える。	【主体的な学び】 有終の美を飾るためにできることをいろいろな立場（個人・クラス・部活・委員会・行事等）からたくさん出せるようにする。

3 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校に対し、自分達の思いを入れよう 校名 校歌 校章 制服 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループを作らせ、指導や支援を入れやすくする ○開校当時の写真・文集等を提示する。 ○校歌・校章への思いを地域の人に語ってもらう。 ○地域の推進委員に新しい学校にかける思いを語ってもらう ○出た意見を集約し、市の担当に伝える。 	<p>【対話的な学び】</p> <p>小グループの中で役割を決め、地域の方と話し合う時間を設ける。</p> <p>各グループの発表をさせ、その後、全体で話合いの時間を設け、いくつかに絞る。</p>
7 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生・地域の方と一緒に活動しよう 体育祭 落成記念式典 合唱祭 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学生や地域の方と一緒に楽しめるプログラムや歌などを考えさせる。 ○各行事を成功させることが有終の美を飾ることにつながることに気付かせる。 ○前もって、予想される問題点を検討させておく。 ○当日どんな活動すればよいかを考えさせる。 	<p>【対話的な学び】</p> <p>小学生と話すとき、考慮すべきことを考えさせる。</p> <p>小学生や地域の人と一緒にを行う機会を設定する。</p> <p>地域の方には、事前の打合せで、目指す子供像を共有することで、生徒に対して適切な関わりをもつていただけるようにする。</p>
13 ～ 15	<ul style="list-style-type: none"> ・有終の美を飾ろう！ 閉校式 地域とのつどい <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り 1年間の活動を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> ○閉校式にどのような気持ちで参加すればよいかアドバイスする。 ○地域とのつどいでは、いろいろな人の思いを受けて、新しい学校が開校したとき、どうしていくべきかを考えさせる。 ○ワークシートを用い、各自、一年間の活動を振り返らせる。 ○何名かに発表させ、新しい学校を自分たちで作りに上げていこうという気持ちを育てる。 	<p>【深い学び】</p> <p>つどいでは、地域の方とふれあい、どんな学校を期待しているか考えさせる。そして、地域の思いをどうとらえたか、そしてそれを受けて今後どうしていくかを重点的に考えさせるワークシートを用意する。</p>

※ 学級(学年)で動く場面と全体(学校)で動く場面がある。

4 学校と地域が連携・協働するまでの道のり

新しい学校については、春日部市庄和北部地域学校再編準備委員会（市職員・3校校長・

3校PTA・地域の代表)が毎月開催され、着実に準備が進められている。細かい点についての準備は、毎月開催される3校運営委員会(3校校長・教頭・教務)で進めている。

地域の思いを生徒に伝えるためにはどうしたらよいか。このことを年度当初の学校応援コーディネーターと話し合いをした。まず、行事に適した人材を推薦していただき、後日、打合せを行ってから生徒への事前指導(生徒。地域の方による合同準備会)参加するという方式で、行事ごとに臨んだ。

1年間かけての取組なので、打合せの回数、来校していただいた人数もかなりものものになった。また、時間も限られているので、いろいろな行事等で来校したときに打合せを行ったり、生徒と話をしてもらったりもした。なお、打合せでは、昨年度の成果を生かした改善を中心に意見交換することで、良好な関係の下で当日が迎えられるようにしている。



【大風の歴史を学んでいる生徒】

5 学校と地域が連携・協働して子供を育てている場面

毎年、5月の3日と5日に行われる大風あげ祭りでは、職員、生徒も参加し、凧揚げを行っている。事前に地域の方から大風の歴史と、安全な凧の揚げ方を教えていただき、当日に臨んでいる。当日は昼から夜のバーベキューまで、地域の中で過ごして様々な語らいをしていく中で、地域の思い・期待を感じる一日となる。このように、地域の方と2日にわたり過ごすことによって、地元を愛する心が培われていく。



【地元の方と凧揚げをしている生徒】

体育祭では、地域の方が参加して一緒に楽しんだ。地域の種目では、地域の方の熱い思いを知り、小学生の種目ではプログラムの内容、そして招集・誘導、競技中の動き方等、どうすれば小学生が楽しめるか、生徒が一生懸命に考えた。小学生が楽しく参加し、最後にその笑顔を見たときの生徒の嬉しそうな顔が印象的だった。



【体育祭で小学生を見守る生徒】

合唱祭でも、地域の方、小学生も参加して一緒に楽しんだ。落成記念式典では小学生と一緒に発表したが、小学生と一緒に練習を重ねた成果が十分に発揮された。休憩時間には地域の方から「感動した！よかったよ!」と声をかけていただいた。最後に地域の方・小学生と一緒に歌う”ふるさと”の大合唱での生徒の嬉しそうな充実した顔が印象的だった。終わった後の写真撮影では、小学生をエスコートしたり、工夫して緊張を和らげたりとがんばっていた。それを温かく見守る地域の方があり、こうした土台・伝統が今の生徒の活躍に結びついているんだと感じた。



【合唱祭で地域の方・小学生と一緒に歌う生徒】

6 成果と課題

(1) 成果

○ 年度当初に、「各行事を成功させることが有終の美を飾ること」を共通理解したこともあるが、事前の取組から行事を成功させようとする生徒の熱意を感じた。このことが各行事の成功につながり、達成感に溢れていた。そして、生徒に自信を植え付けることができた。それが次の行事も成功させようというよいサイクルになった。リーダーたちの成長もさることながら、特に中心となって動いていた生徒会本部役員の成長は著しかった。

○ 年間を通していろいろな場面で地域の方とふれあい、話合いをしてきたが、今まで生きてきた中で、これほど大人たちと話すことは初めての経験であったことだろう。この貴重な経験を通して、改めて地域の方の学校、そして生徒への熱い想いを知ったことは、地域を愛し、地域のためにがんばれる生徒へとつながっていくだろう。

○ 地域の思いを感じれば感じるほど、新しい学校を自分たちで作っていく意識が高まり、例年を遥かに超え、新年度への意識・やる気が高まった。

○ 年間を通していろいろな立場の人と話し合うことによって、話合いのスキルが高まった。特に他者のいろいろな考えを取り入れ、自分ができることを考えようとする姿勢が高まった。

(2) 課題

○ 新しい学校をつくろうということで、地域の方とふれあい、話合いをいろいろな場面で用意できたが、今後も定期的にそういう場を作っていかないと、今回の生徒の意識の高まりが引き継がれない。今回は、あくまでも特別な事例なので、これで終わりではなく、継続的な取組を考えていくことが大切である。今回は教務主任が中心となって活動計画を作成し進めてきたが、これからは、活動母体を学年等に変える必要がある。

○ 新しい学校を自分たちで作っていこうとする意識が空回りしないように、計画的にプログラム作りをする必要がある。

○ せっかく高まった話合いのスキルを各教科の学習で生かすことができるよう、各教科で年間を通した計画を立てることが学力の向上につながる。



【始業式で江戸中に対する熱い思いを語るPTA会長(第44代生徒会長)の話聞く生徒】

7 NEXT PLAN

地域の方の熱い思いを知り、自分たちが地域に愛されていることがよく分かったと思う。それがこれからの学校生活に反映してくることだろう。そして、この取組を次につなげていくことが大切である。そのために、学校応援団の存在が重要となる。来年から義務教育学校がスタートする。新たな枠組み(学校全体、ジュニア・ミドル・ハイで、あるいは学年・クラス、各教科等)の中で、いろんな取組を考えることができる。とても楽しみである。

【過去の研究主題】

年度	研究主題
昭和 37 年度	小・中学校児童・生徒の遊びの調査
昭和 38 年度	小中学校児童・生徒の遠足並びに修学旅行の実態調査
昭和 57～61 年度	自然にふれる校外教育
昭和 63 年度～平成 4 年度	校外における体験学習
平成 5・6 年度	校外における体験学習（奉仕的活動）
平成 7・8 年度	児童生徒の校外生活の実態
平成 9・10 年度	児童生徒の自然体験と遊びの実態
平成 11・12 年度	自然にふれる校外学習の実態
平成 13・14 年度	子どもの生活・遊び・地域での活動に関する研究 ～学校週 5 日制完全実施と関連して～
平成 15・16 年度	「総合的な学習の時間」における校外での学習活動 の実態に関する調査
平成 17・18 年度	「規律ある態度」達成目標の取組
平成 19・20 年度	奉仕活動・体験活動
平成 21・22 年度	「みどりの学校ファーム」を活用した農業体験活動
平成 23・24 年度	児童生徒が乳幼児とふれあう体験活動について
平成 25・26 年度	「郷土の伝統文化体験活動」について
平成 27・28 年度	企業・NPOなどと連携した体験活動について
平成 29・30 年度	学校と地域が連携・協働した教育活動について

調査研究委員一覧

1 小・中学校教員

地区名	氏名	所属校名
さいたま市	押田 晃利	さいたま市立大門小学校 (H29) さいたま市立河合小学校 (H30)
	三澤 健吾	さいたま市立岩槻中学校
南 部	針貝 真以子 (H29) 末澤 一平 (H30)	鴻巣市立松原小学校
	植島 安英	和光市立大和中学校
西 部	村上 俊介	飯能市立飯能第一小学校
	高根 政秀 (H29) 濱中 紀寿 (H30)	所沢市立狭山ヶ丘中学校
	佐藤 紀子 (H29) 須永 伸一 (H30)	秩父市立秩父第一小学校
北 部	須永 伸一 (H30)	秩父市立秩父第一小学校
	笠原 浩史	神川町立神川中学校
東 部	蓮見 宣宏 (H29) 佐井 純一郎 (H30)	白岡市立南小学校
	近藤 一雄	春日部市立江戸川中学校

2 県教育局関係

平成29年度		平成30年度	
氏名	所属・職名	氏名	所属・職名
橋本 強	家庭地域連携課長	石井 宏明	市町村支援部参事兼 義務教育指導課長
岡 裕子	家庭地域連携課・主 幹	吉田 元	義務教育指導課・教育指導幹
重岡 勝之	〃 ・指導主事	齋藤 直美	〃 ・指導主事
相良 将之	〃 ・主 査	浅井 大貴	〃 ・指導主事
篠崎 理子	〃 ・主 任	田中 孝佳	〃 ・主 査

※ 校外教育調査研究会は、県教育局内組織の改編により、平成30年度から義務教育指導課が所掌している。

編集・発行 一般社団法人 埼玉県校外教育協会

平成31年3月発行

(事務局) 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課内

[住所] 〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

[電話] 048-830-6748

[FAX] 048-830-4962